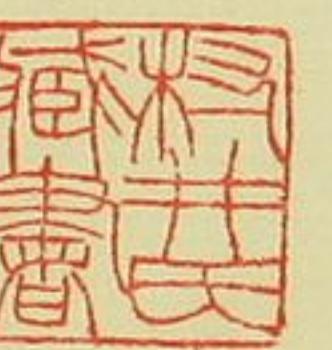


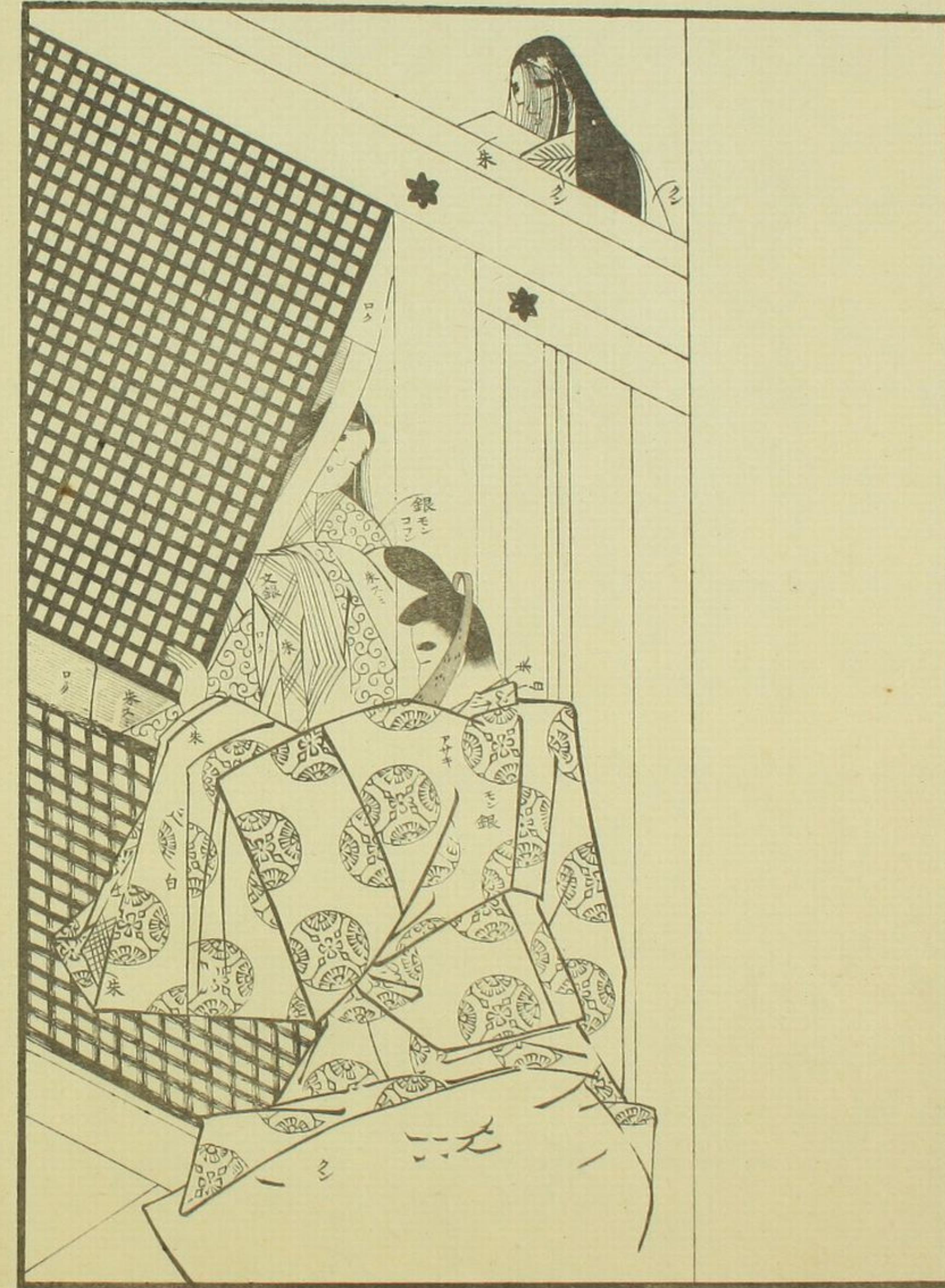
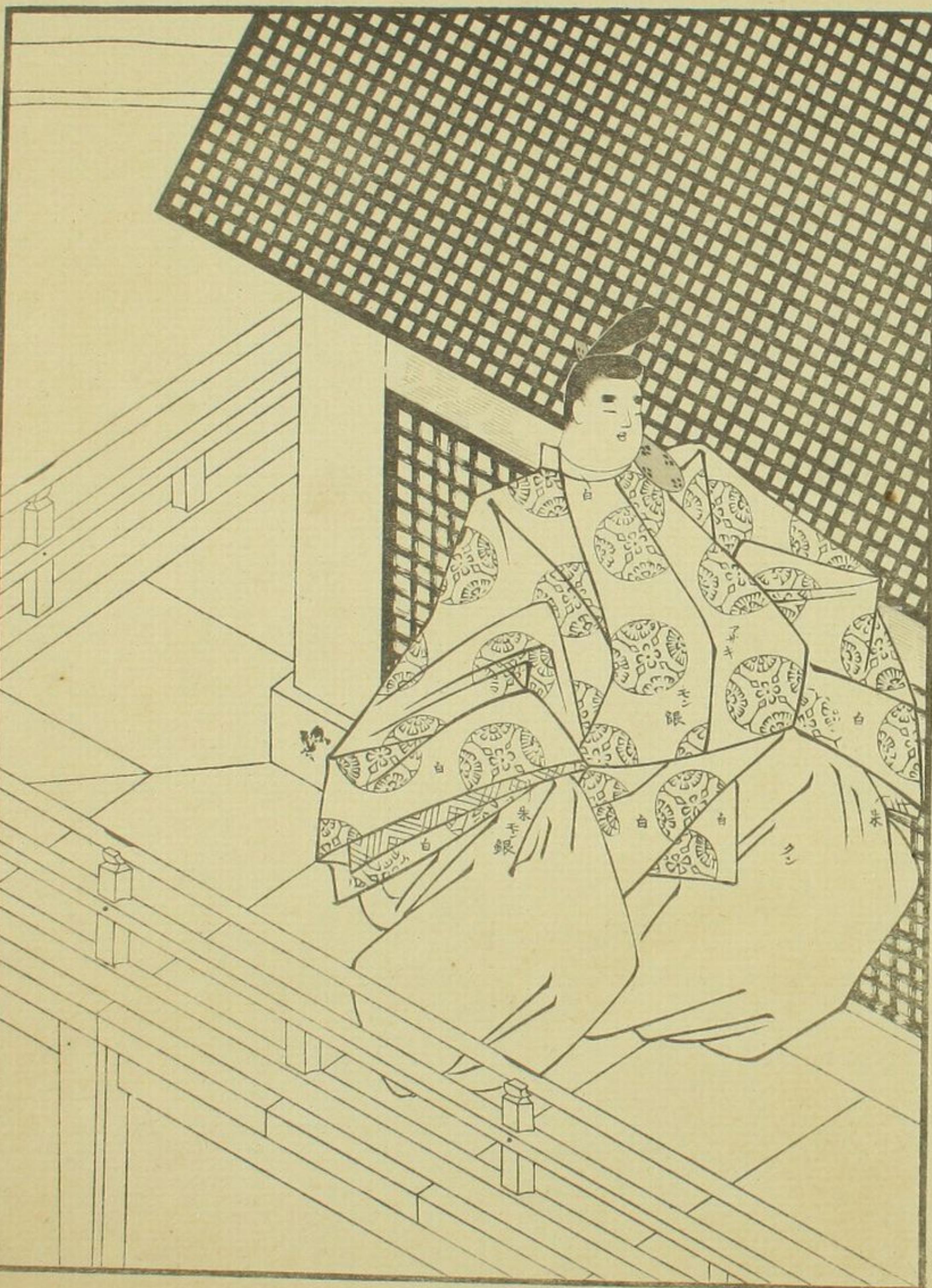
7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5 6 7 8 9 90 1 2 3 4 5 6 7 8 9

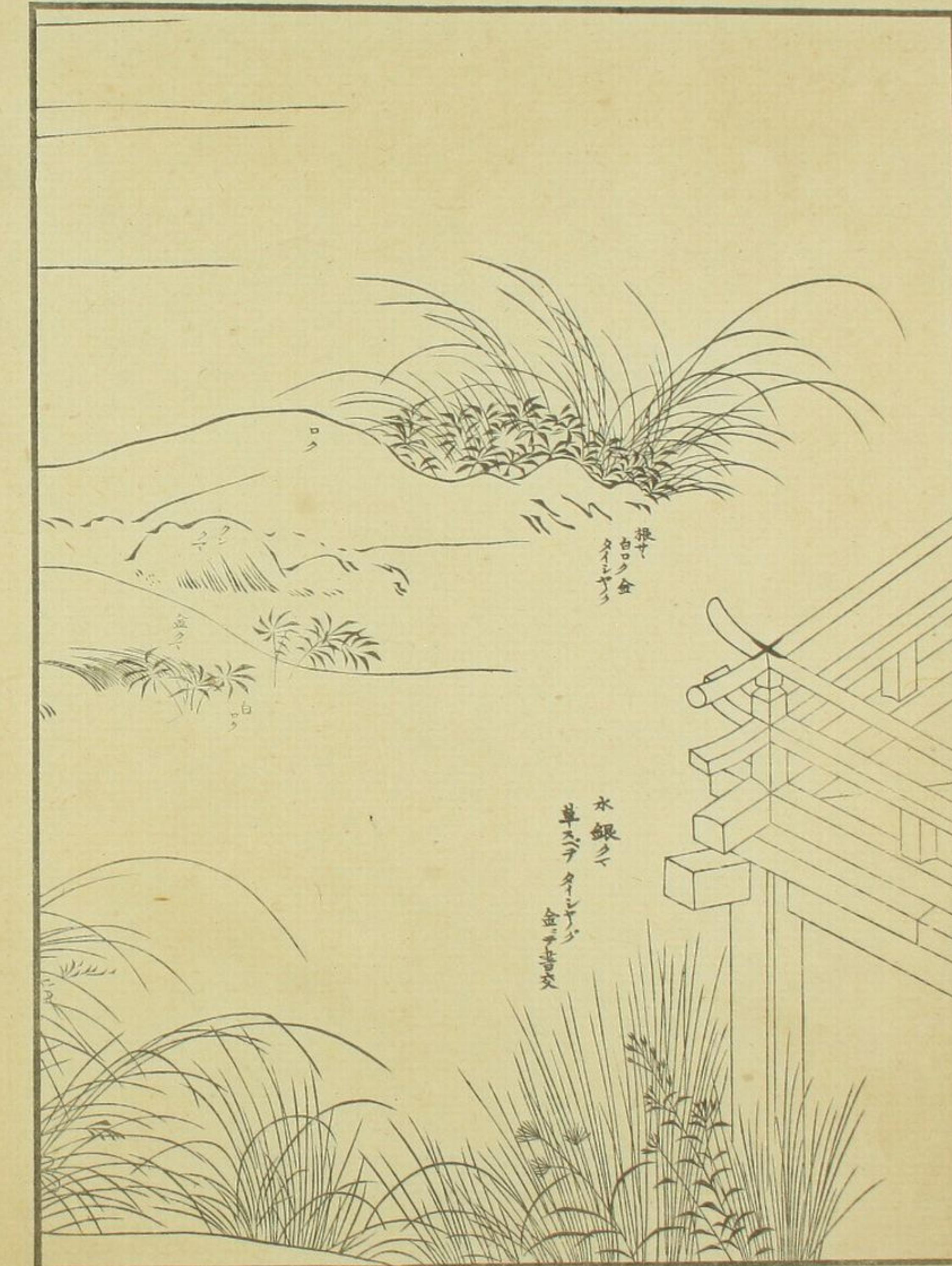
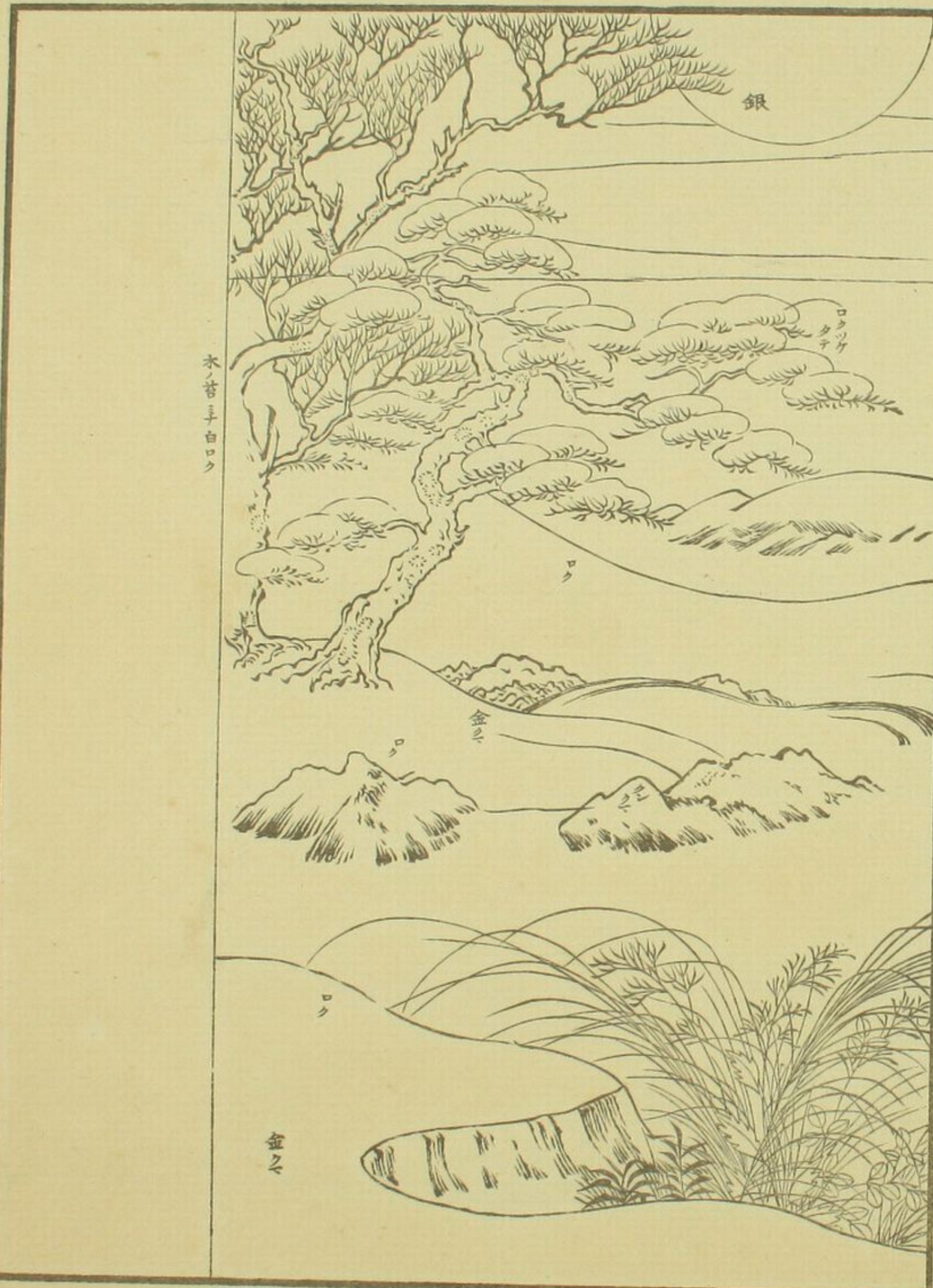
此式部日記繪卷

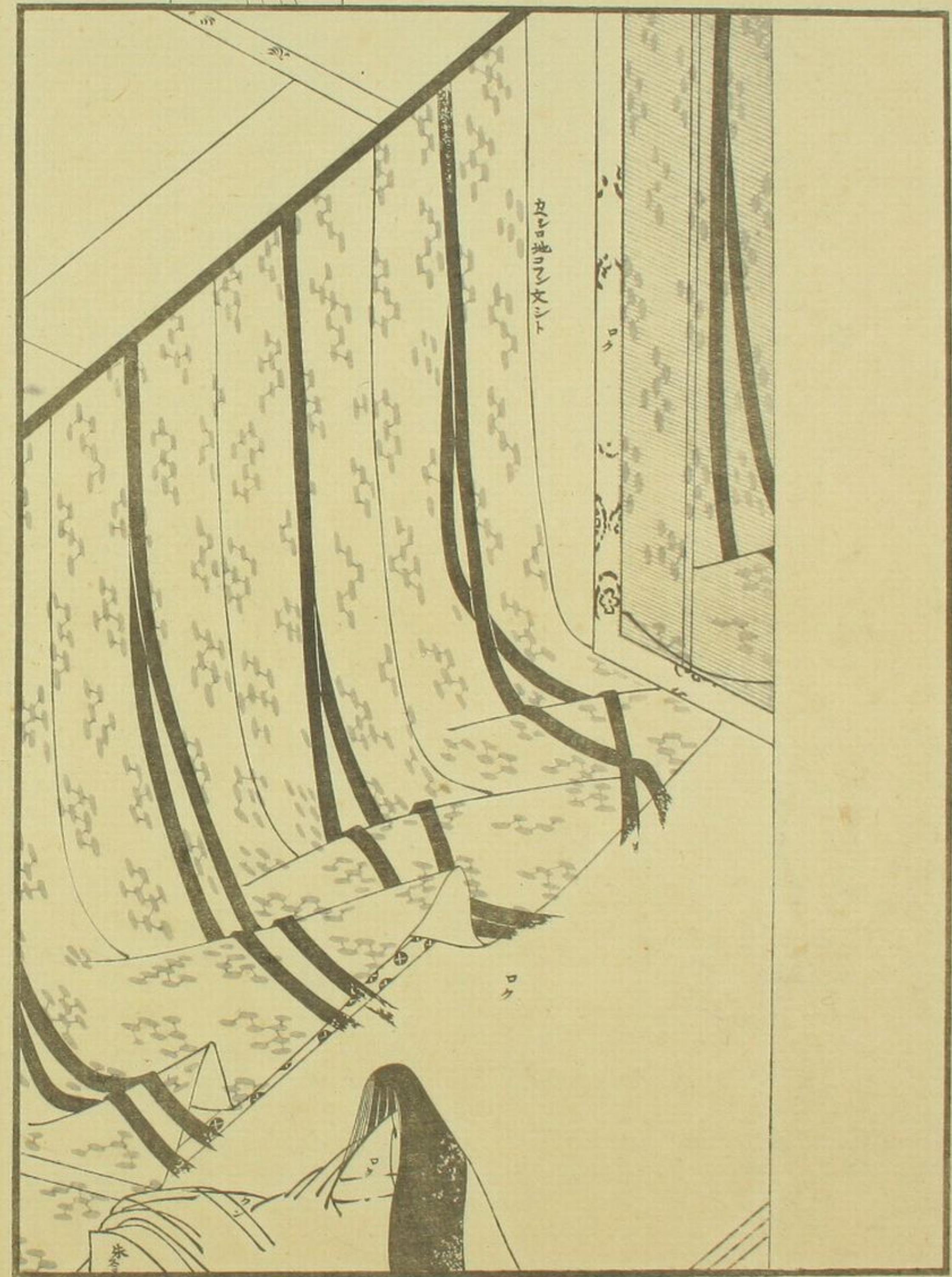
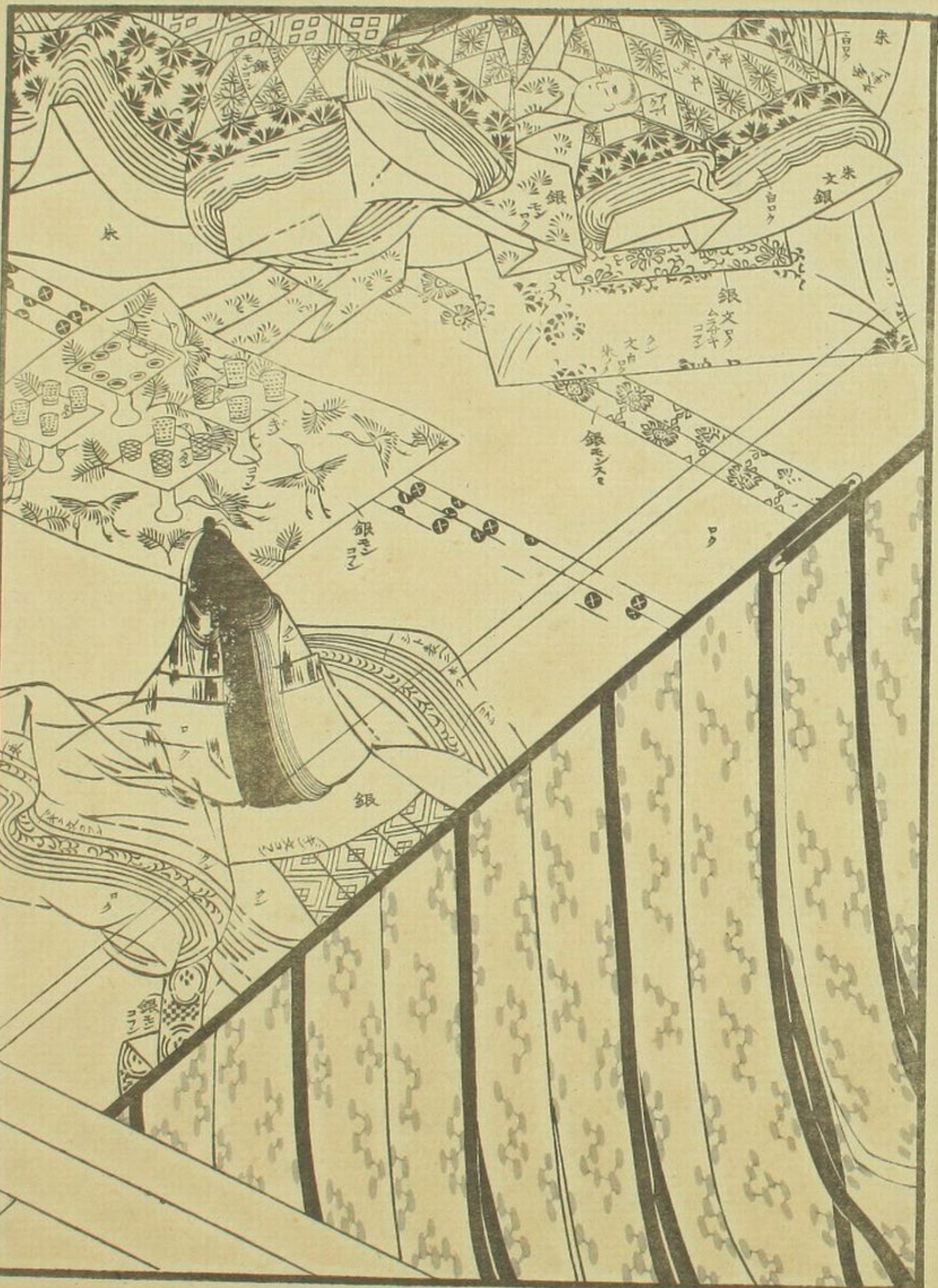


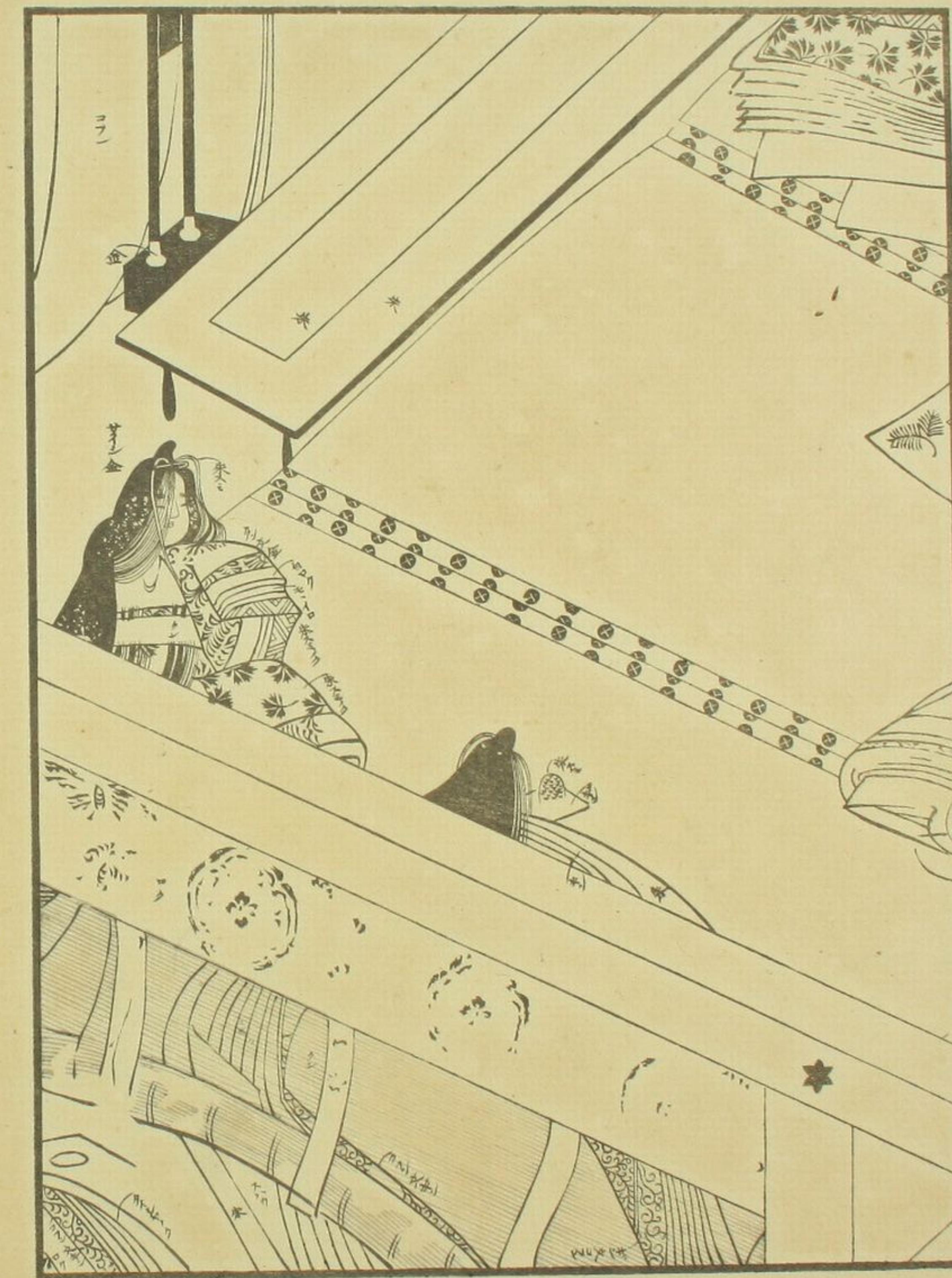
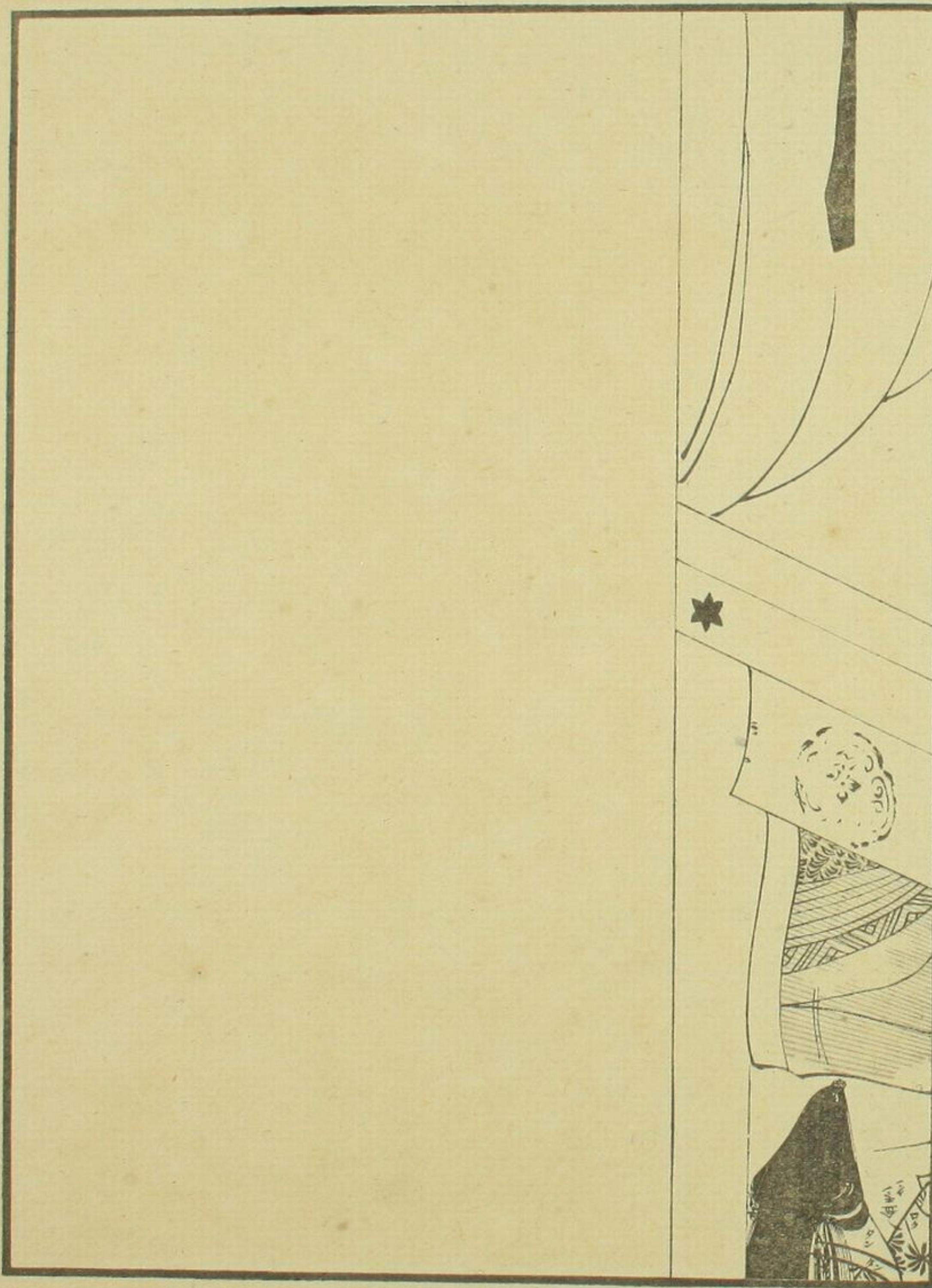
紫式部日記画卷

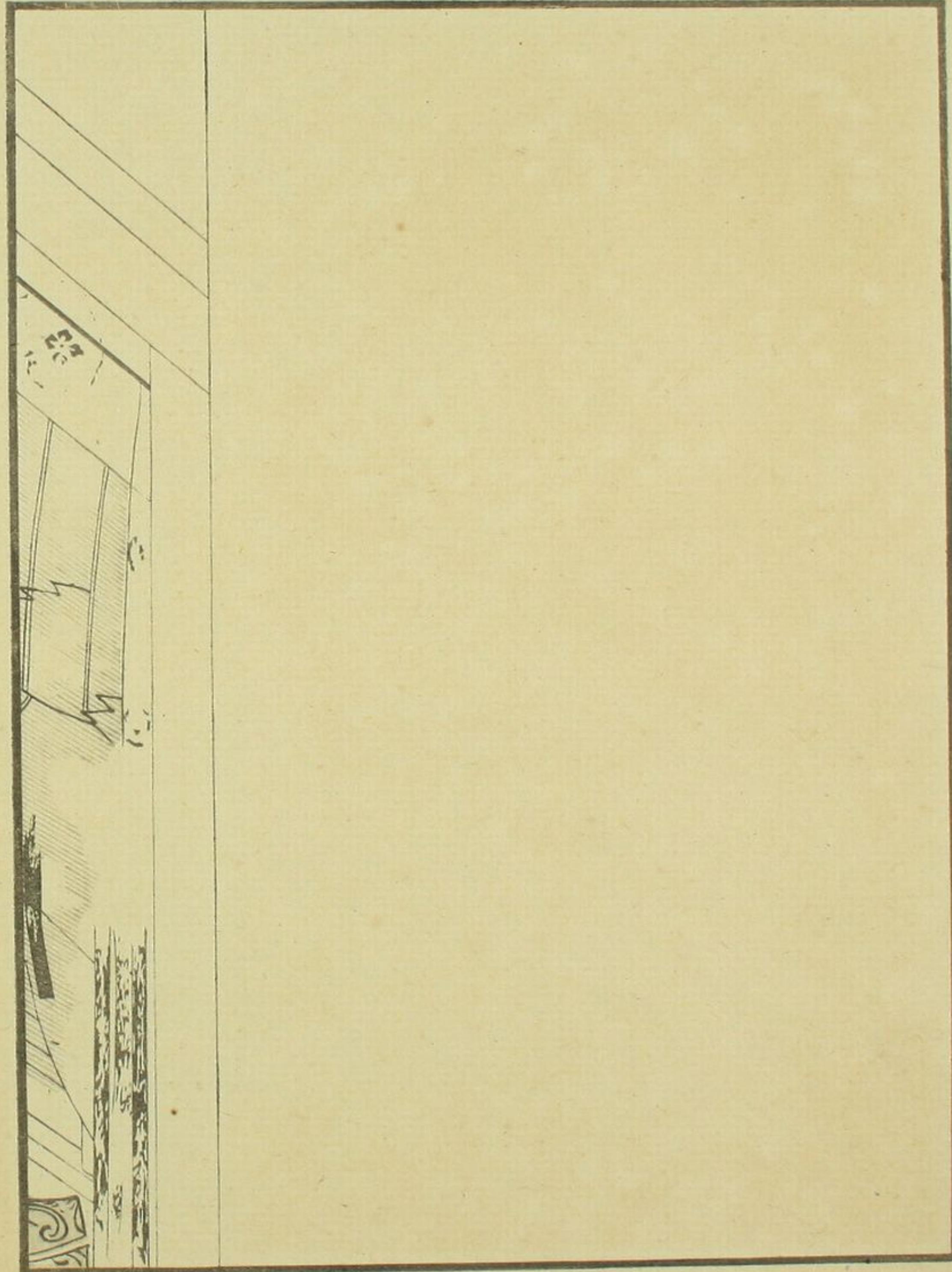
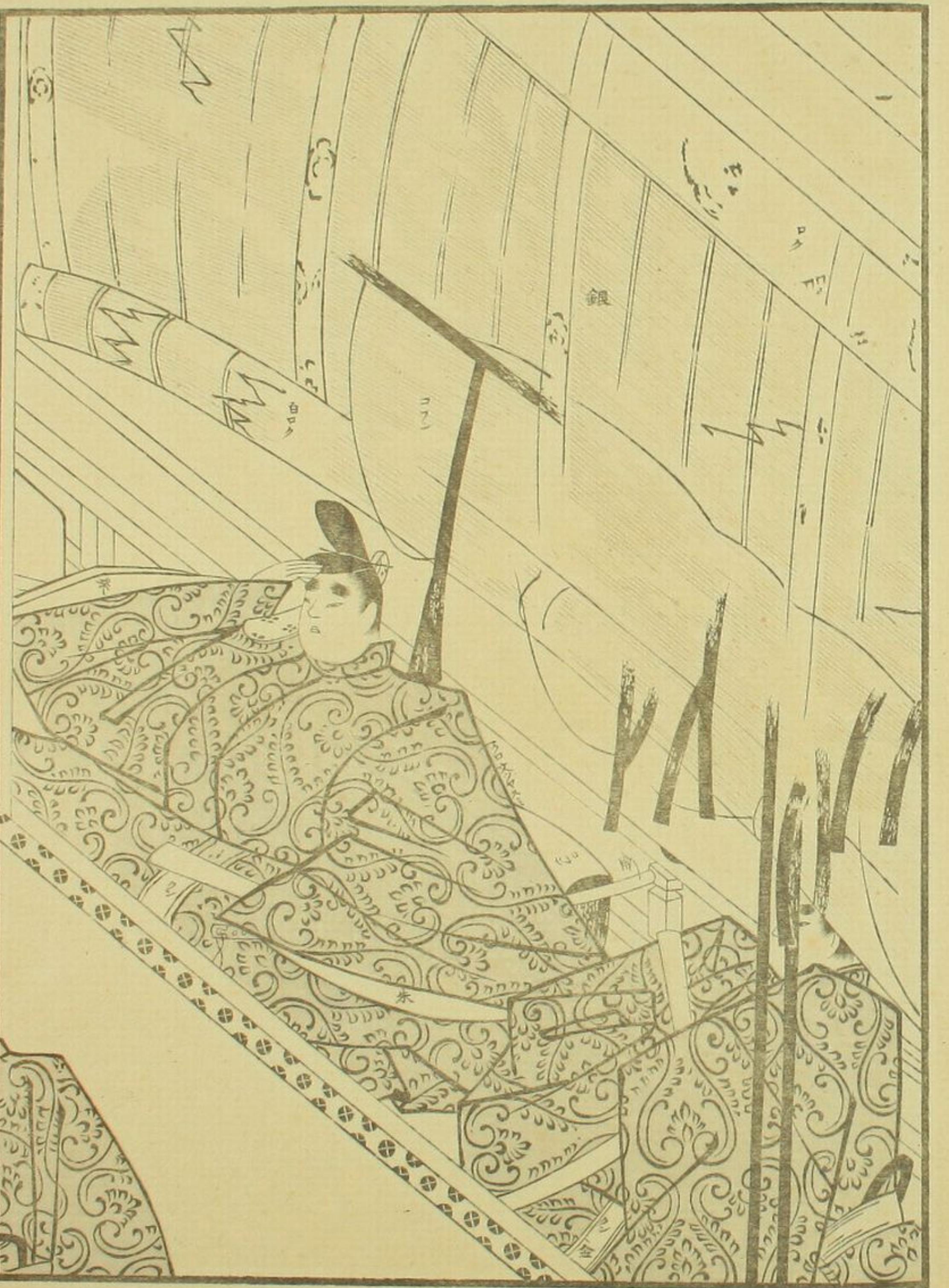


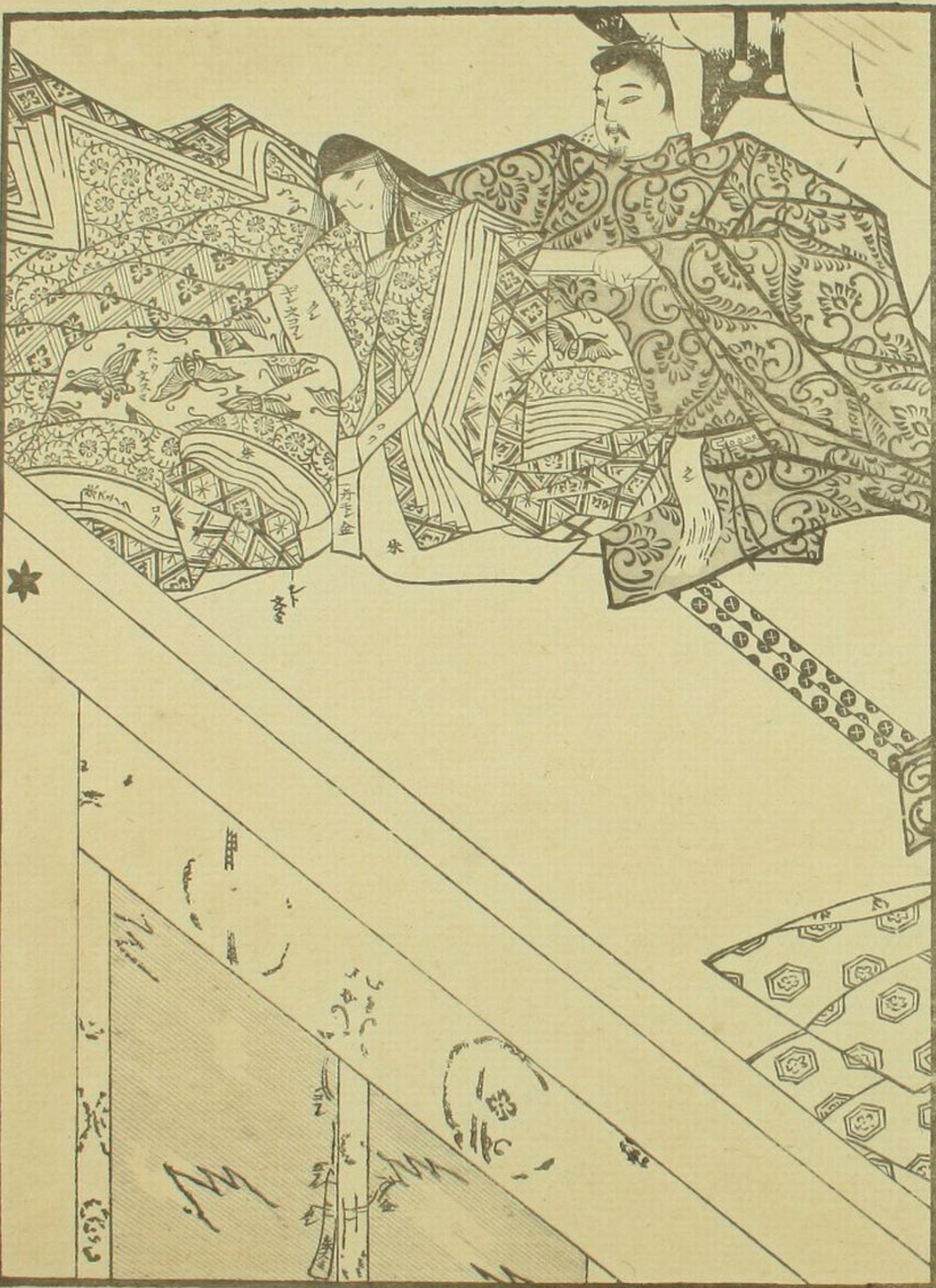


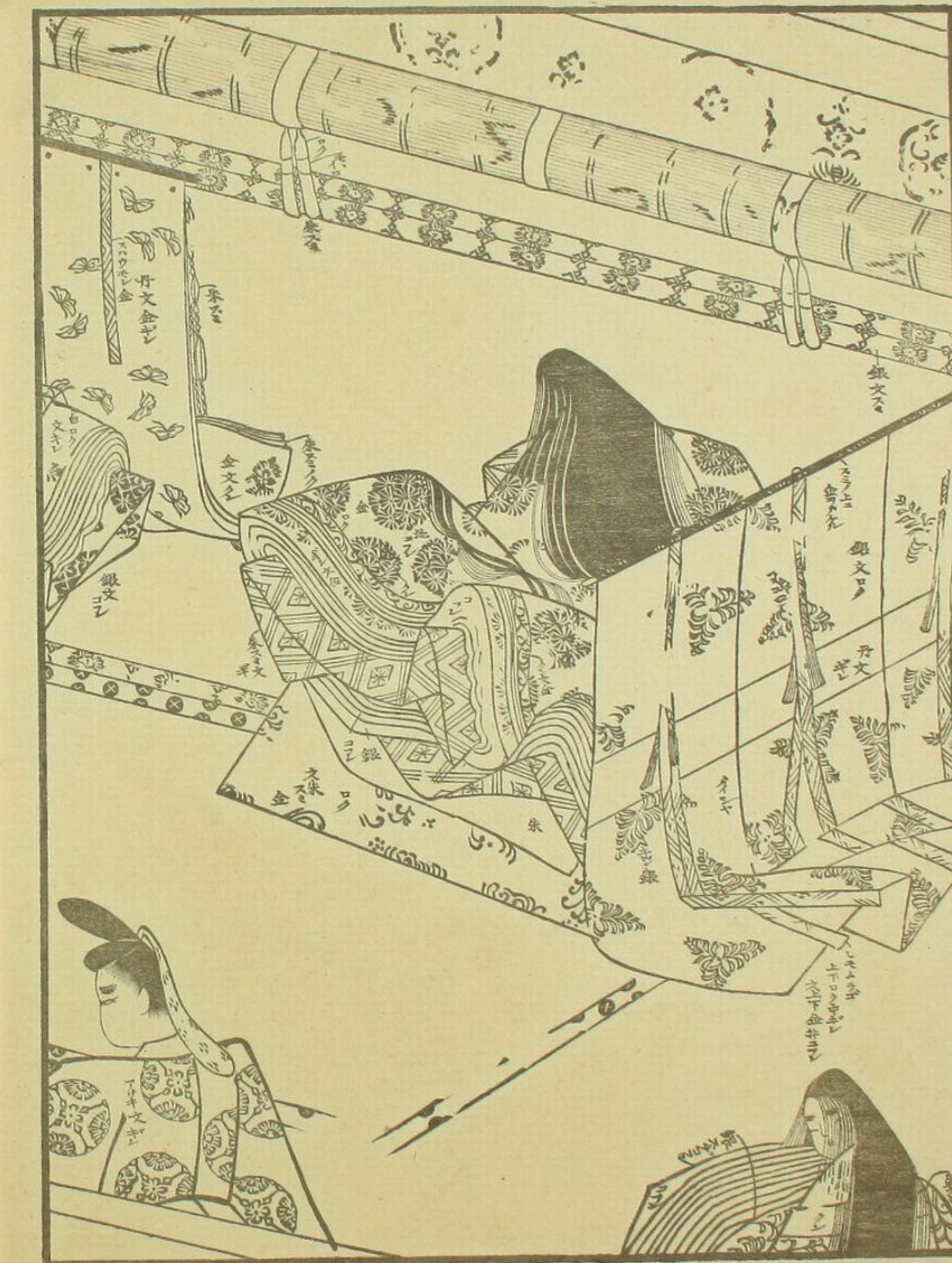
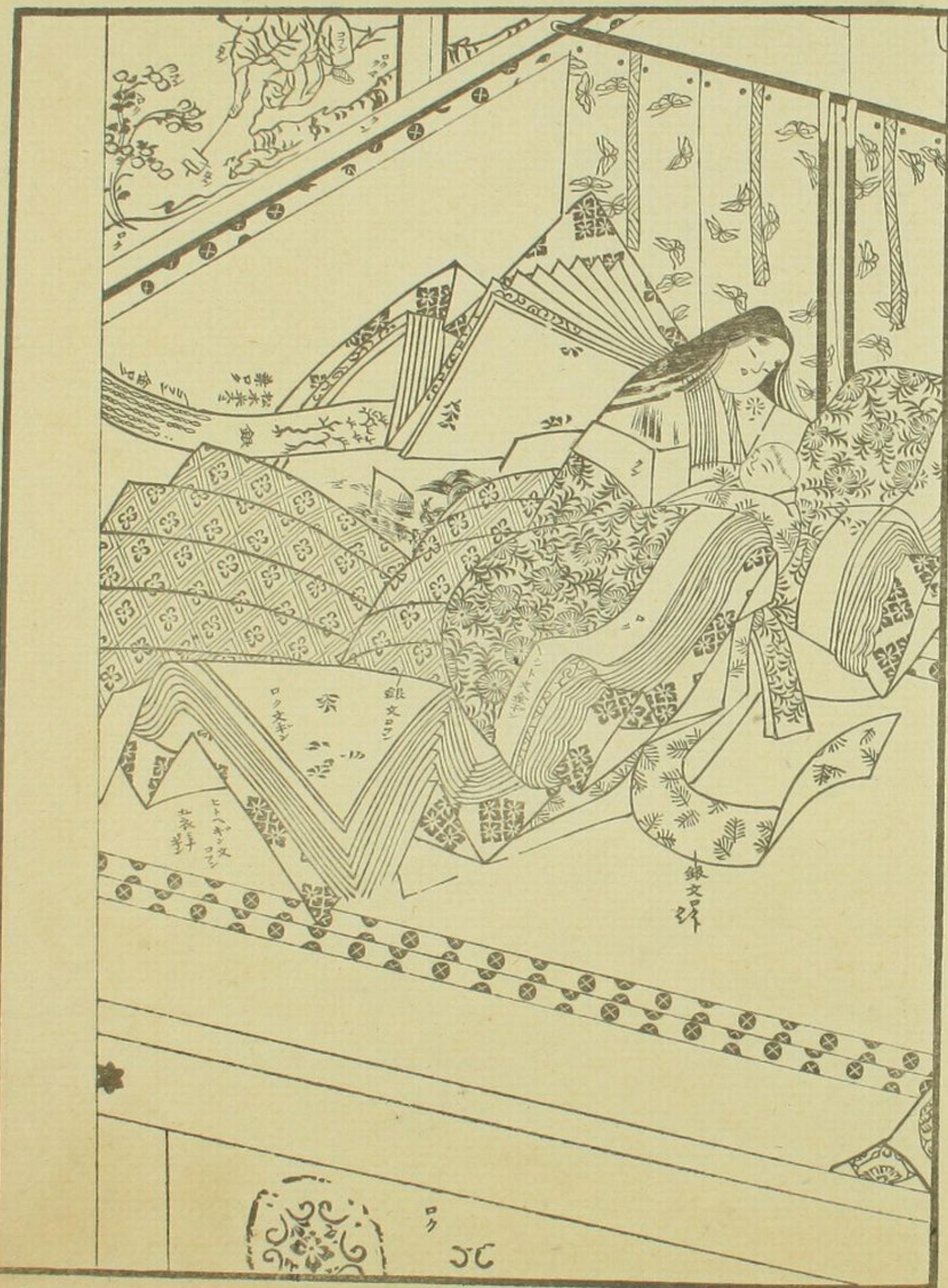




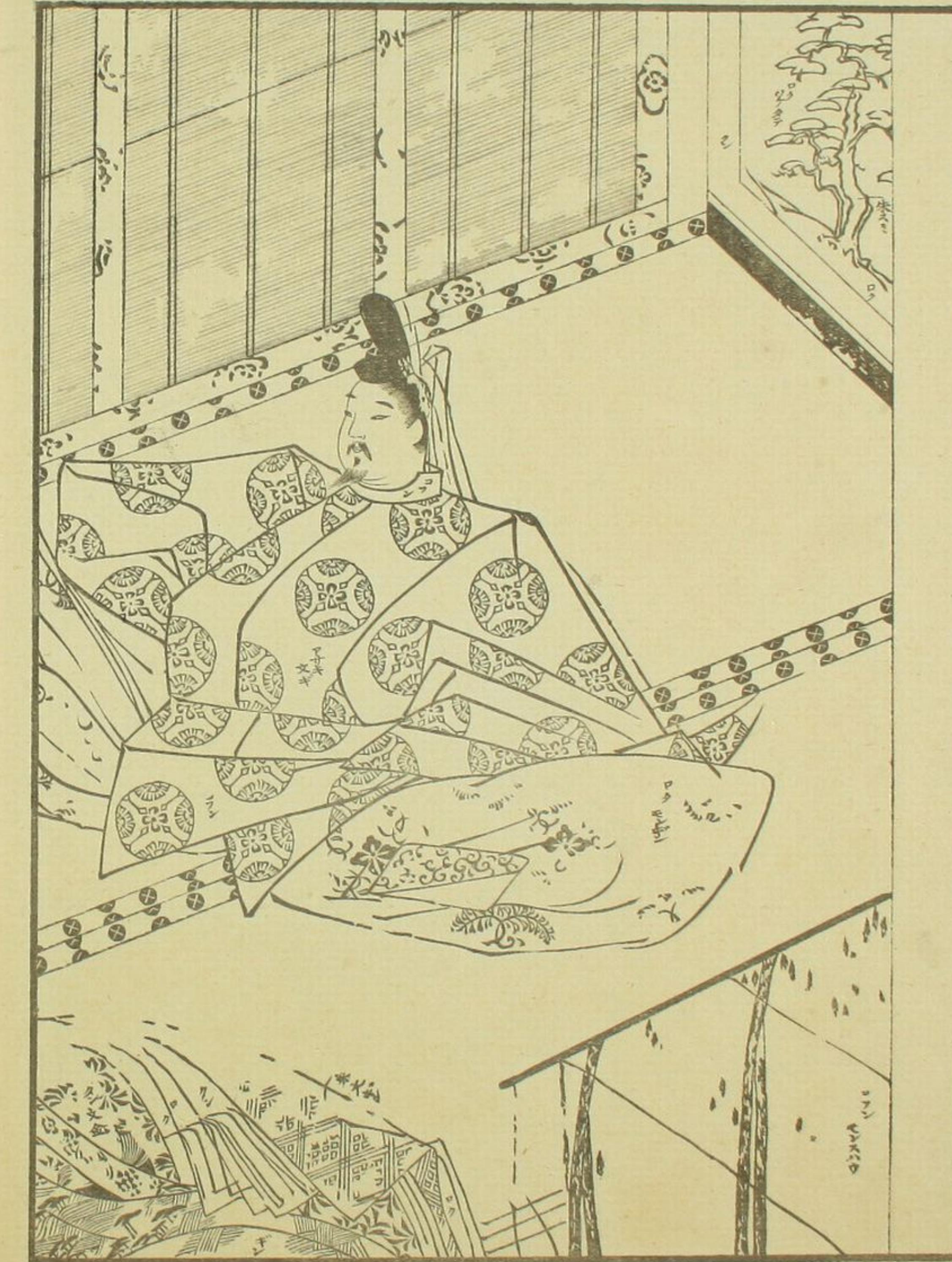
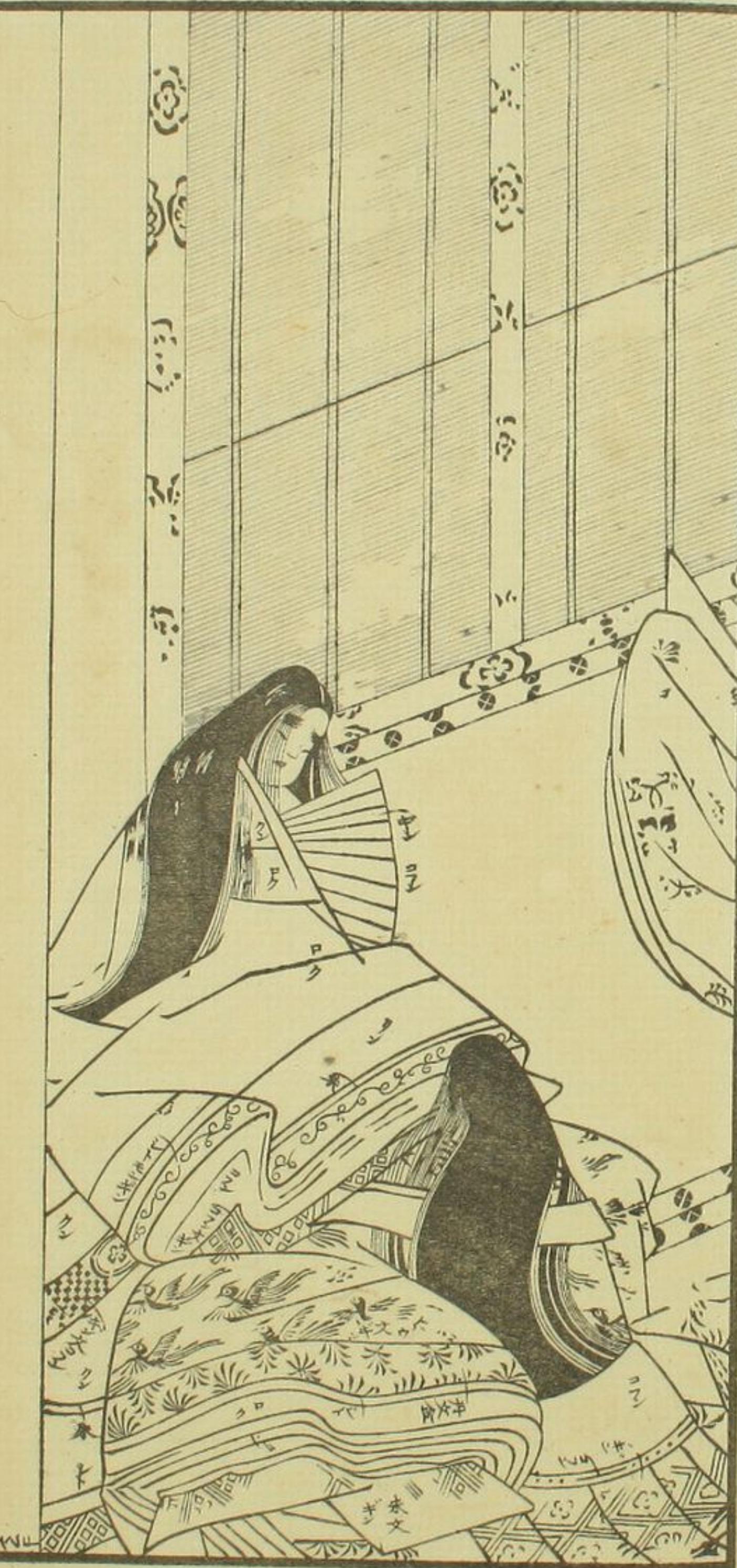








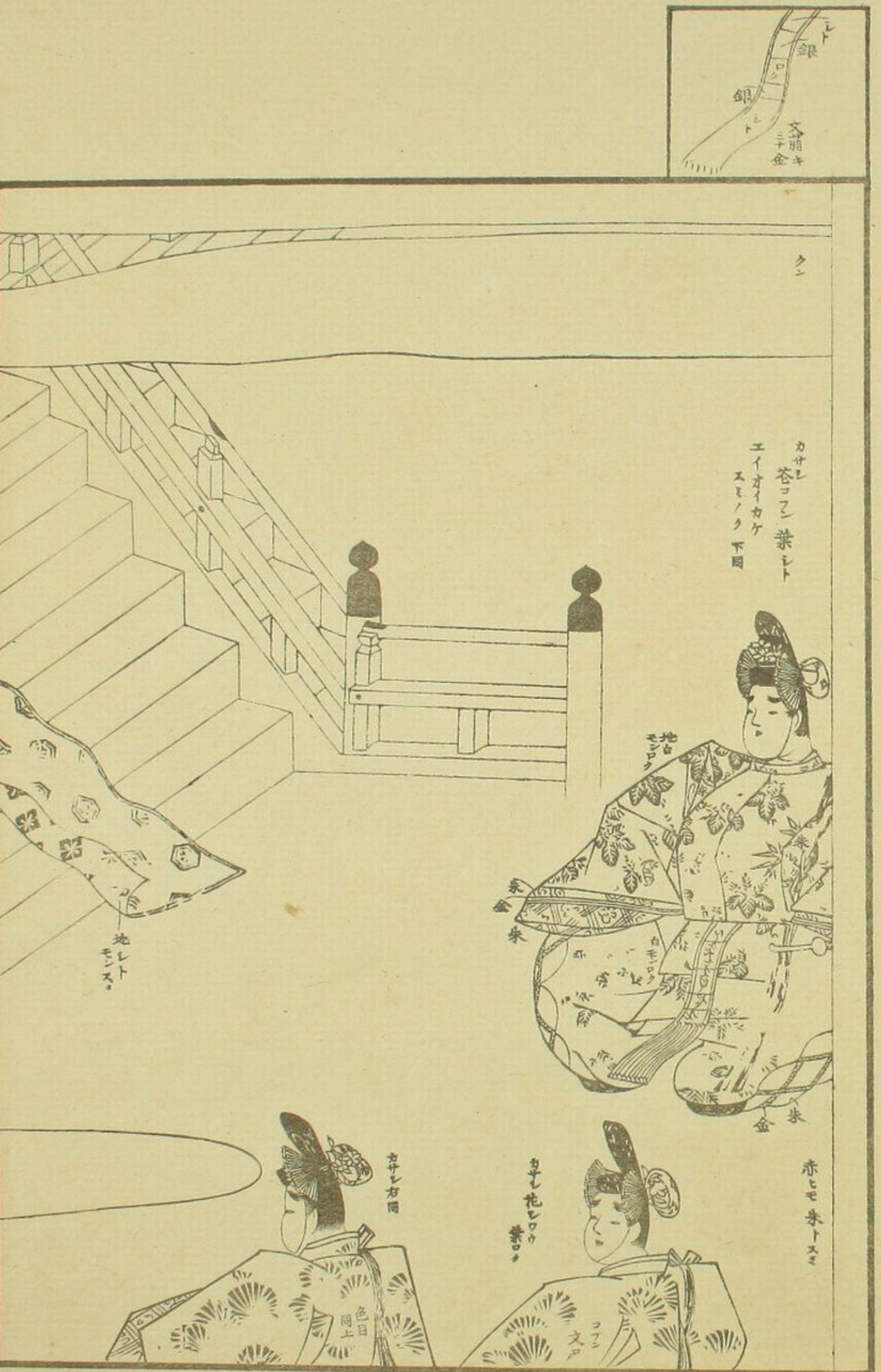
已上詞缺

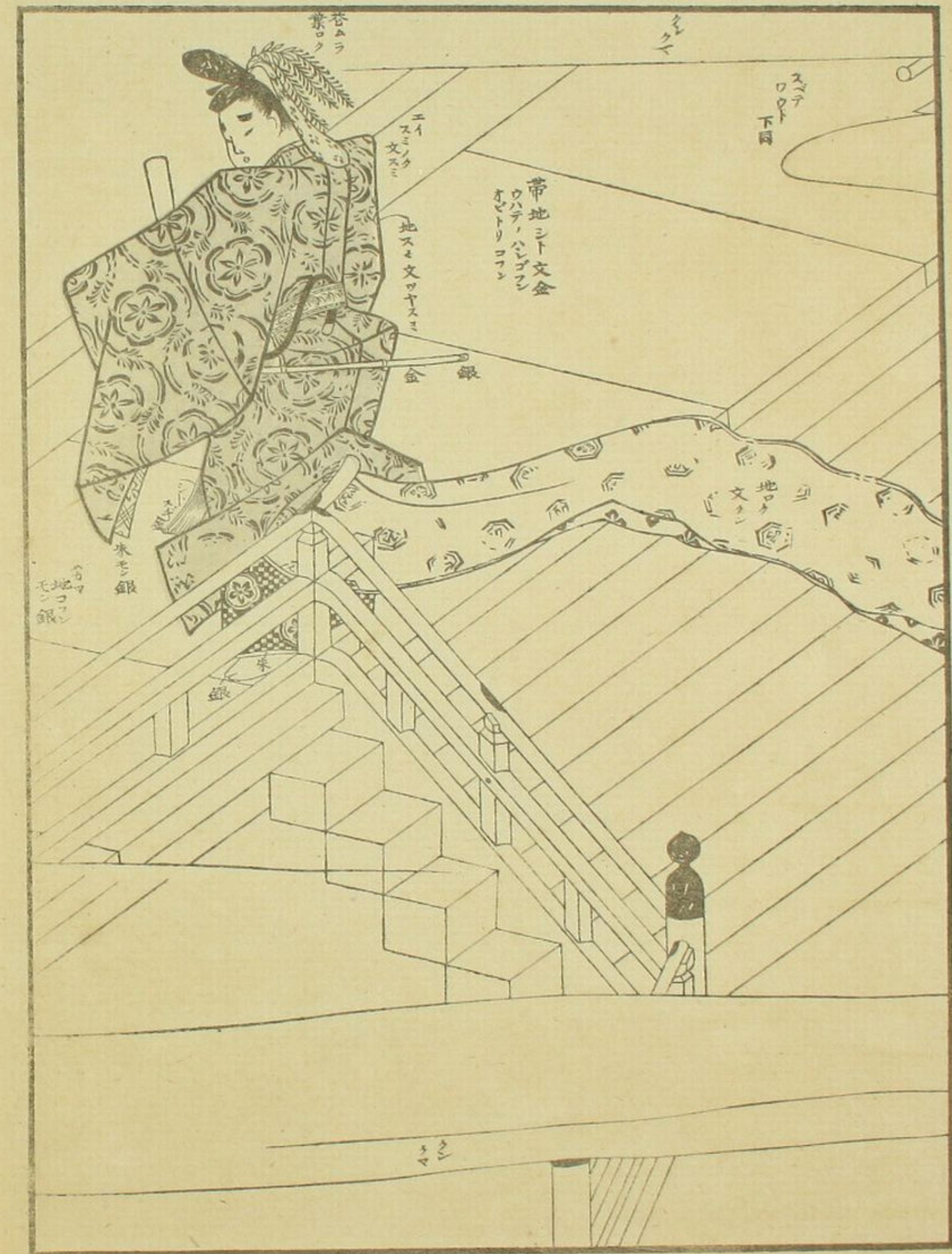
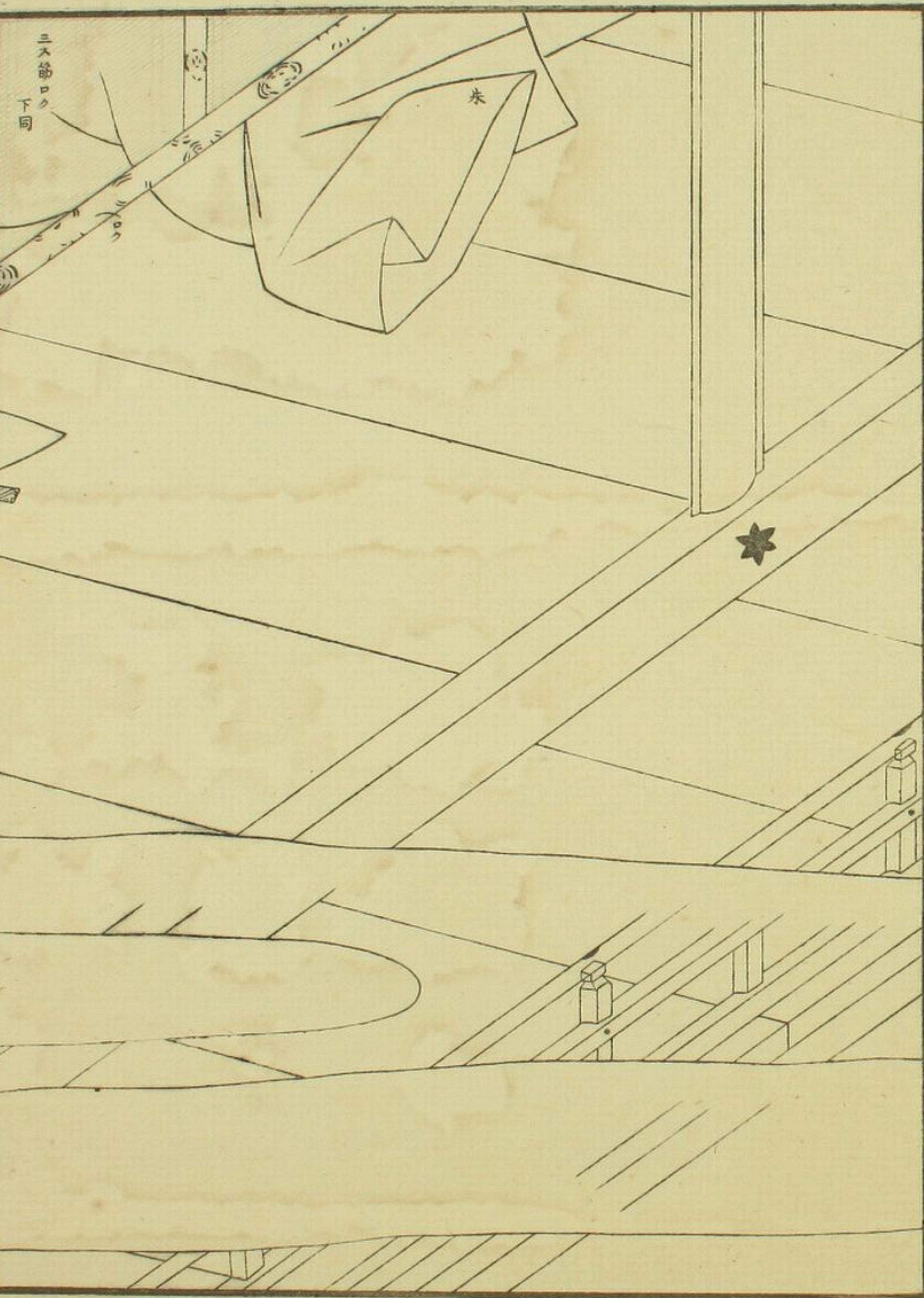


まもーのまうまひつゝひよどりておおわらふ
あさとすれどく脚ものいふおおき殿脚とのいせと
とおつづれしむらえむまひくのまうらかう
とよひよほくごのわすりとものわづけと
ひよくわづれしむらえむまひくのわづけと
しすけひの君のまうらかうしよかのく
うおまくのむるくお命ぬいまひくよまゆみ
やくすうじまくわくくまくくの脚のまうらか
とまやうとわくくはくまくくの脚のまうらか

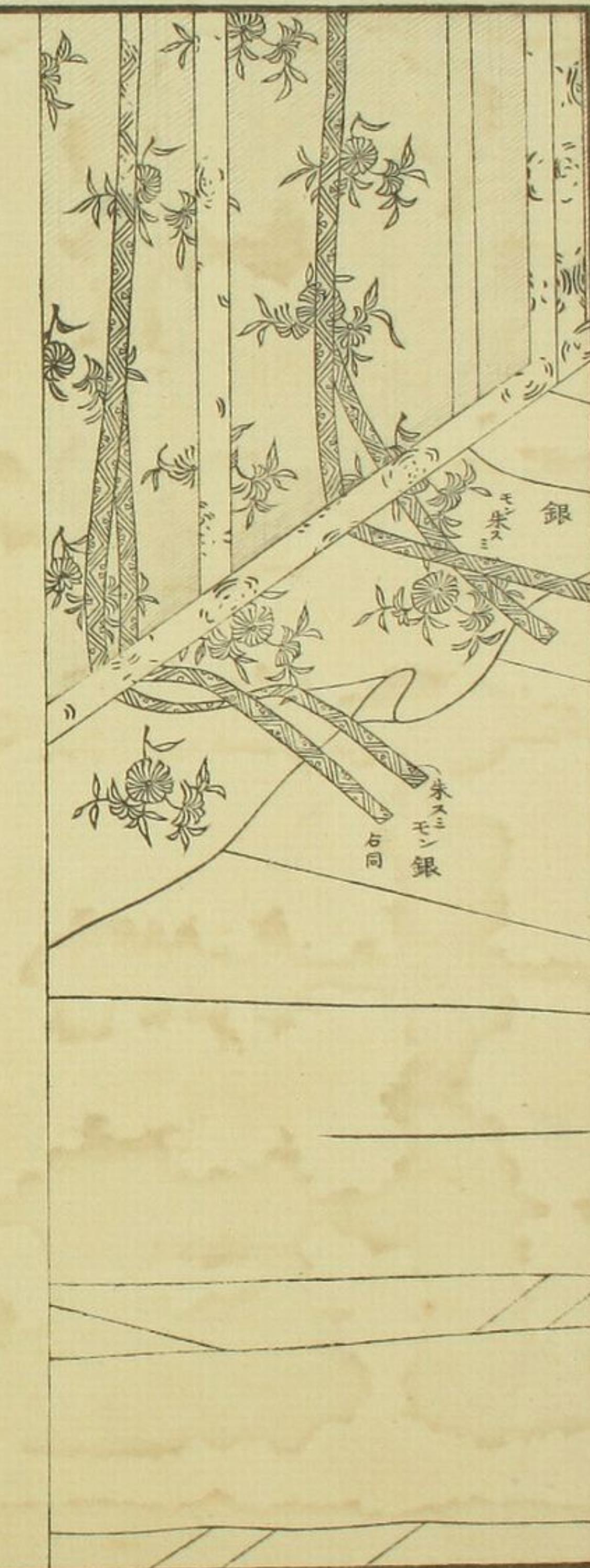
もひくわらひのすまにむかひてはるはるひきまふ
あめのまよひのすまにむかひてはるはるひきまふ
ひのまよひのすまにむかひてはるはるひきまふ
とひよひのすまにむかひてはるはるひきまふ

+

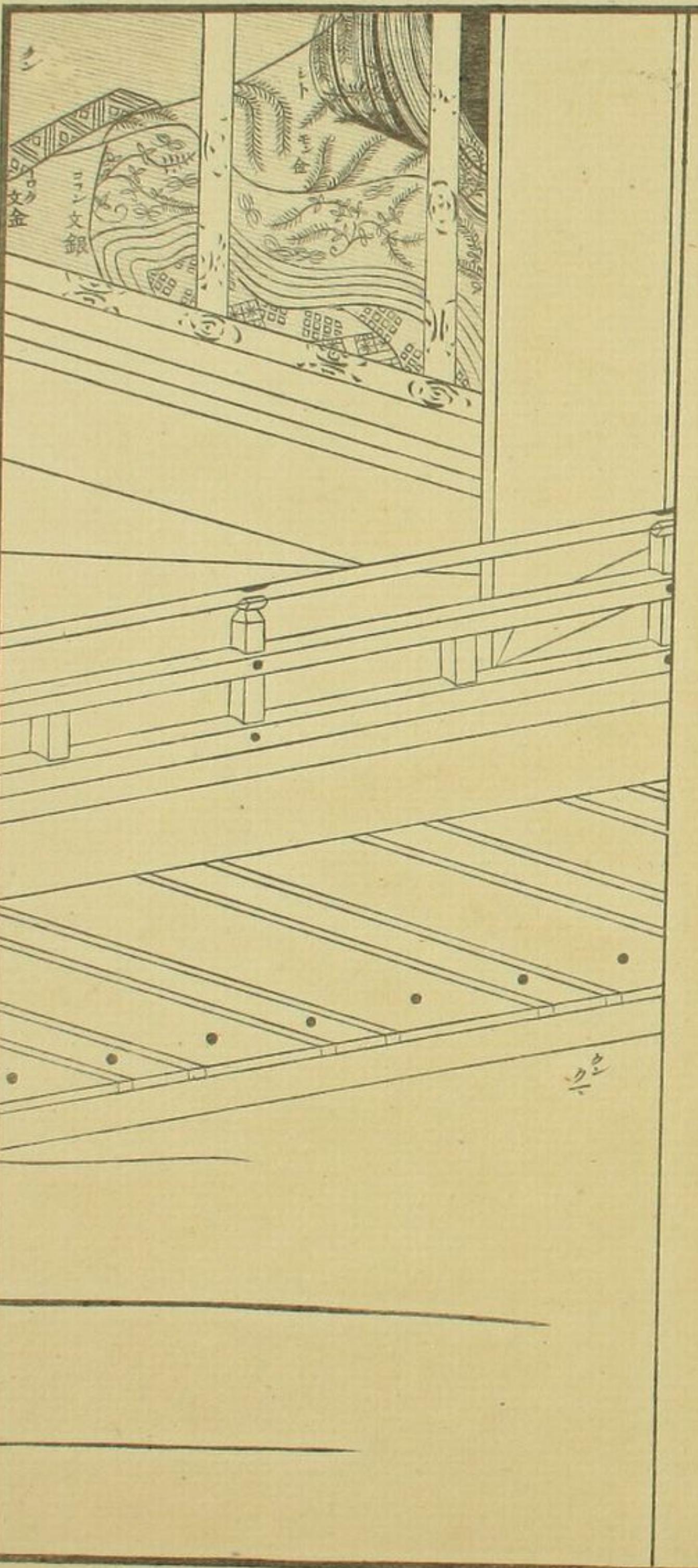


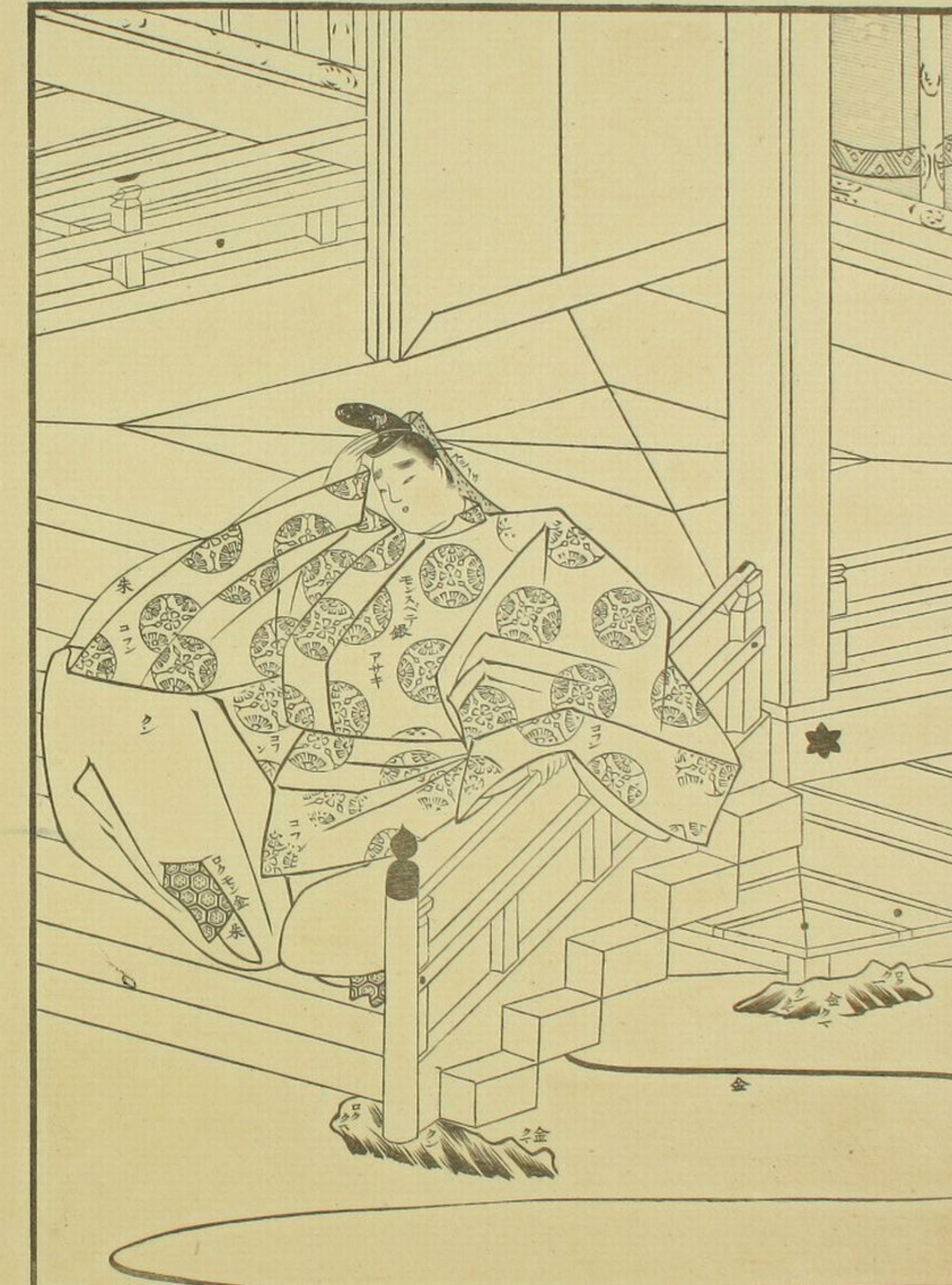
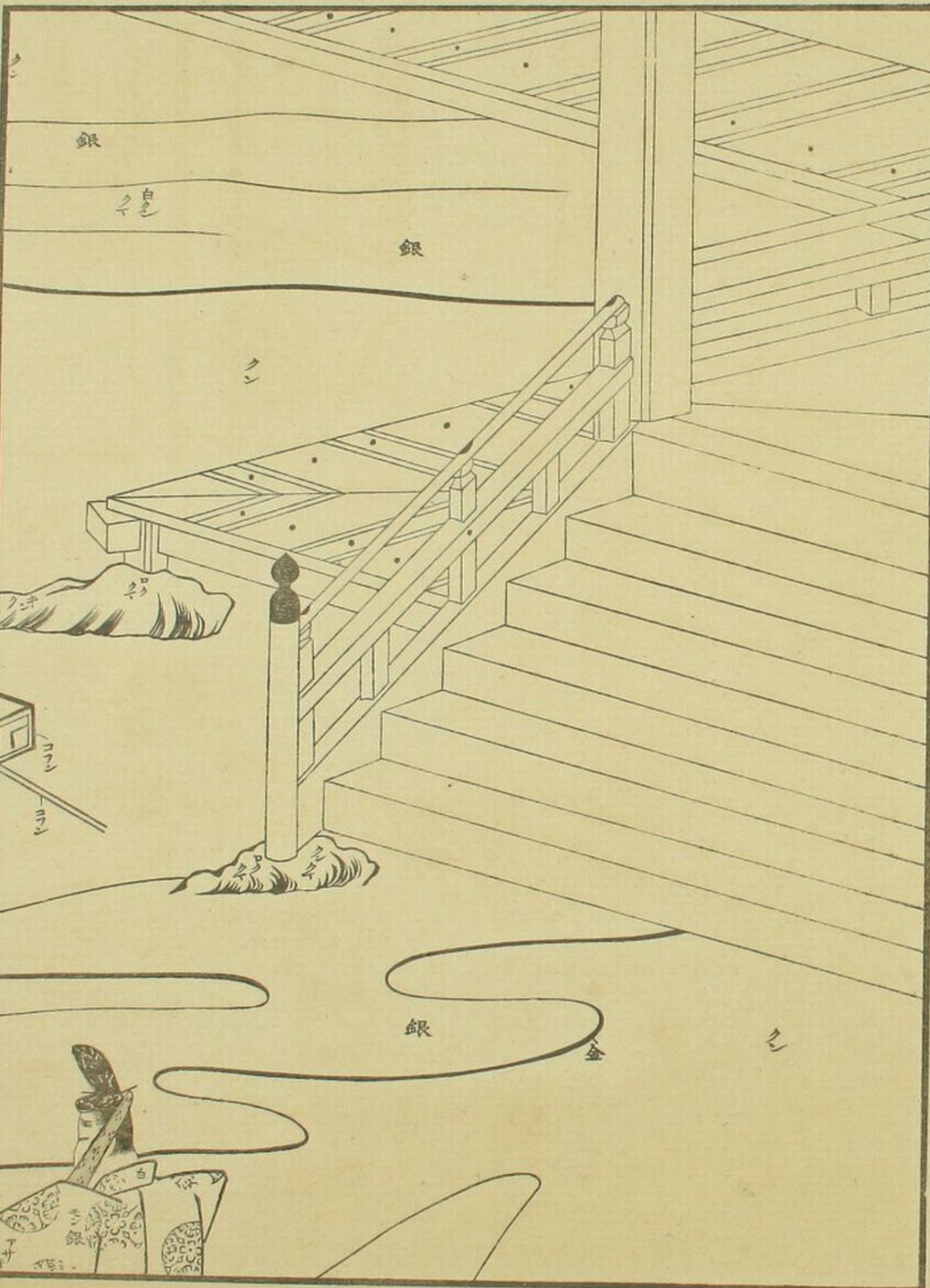


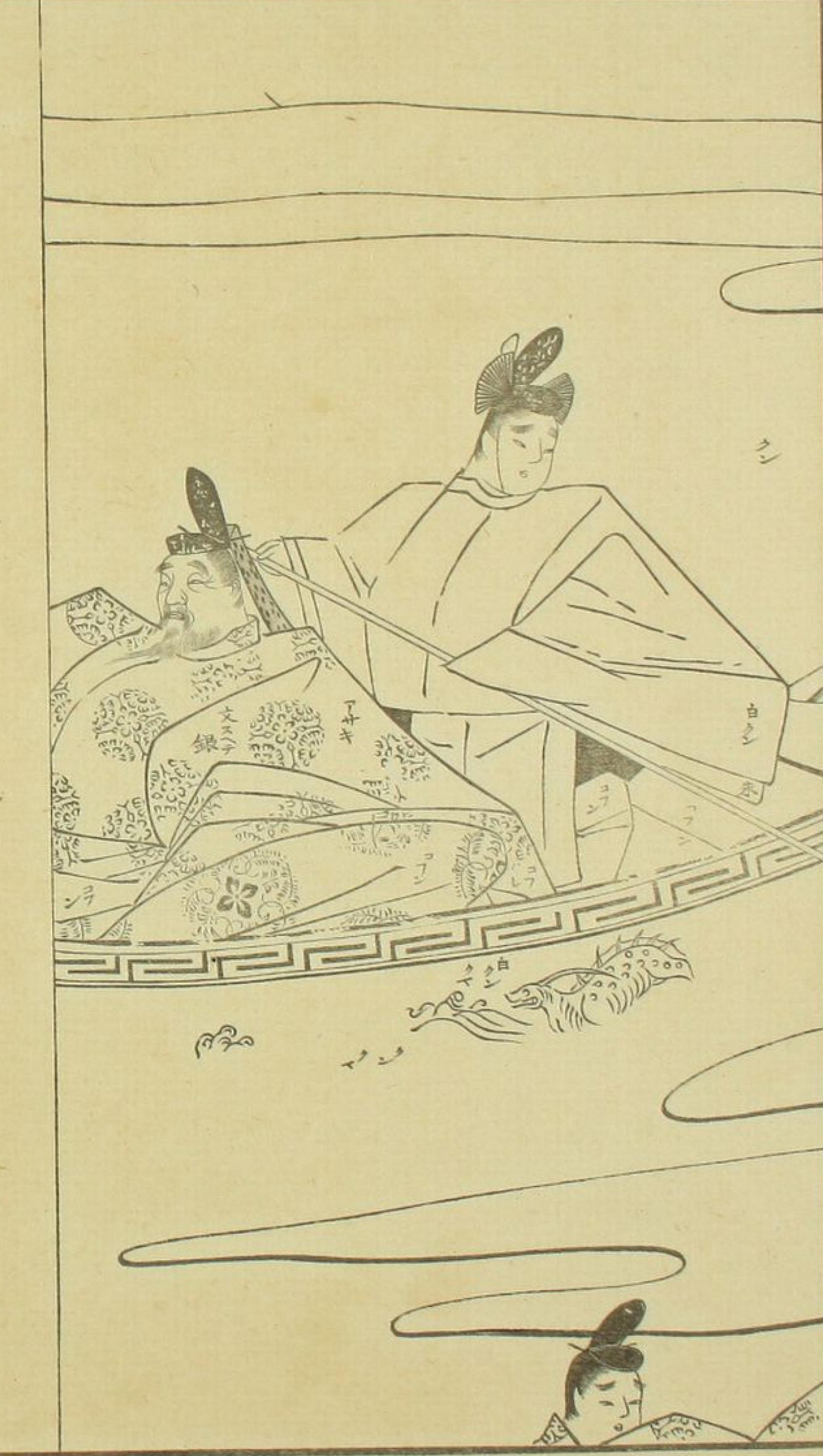
物のせたりよまゆるにそくまゆる
よひにまゆるにそくまゆる
もせりよまゆるにそくまゆる
きよまゆるにそくまゆる
くうふよまゆるにそくまゆる
をよまゆるにそくまゆる
まくにまゆるにそくまゆる
こくよまゆるにそくまゆる



とくにあらわせ
とくにあらわせ
とくにあらわせ
とくにあらわせ



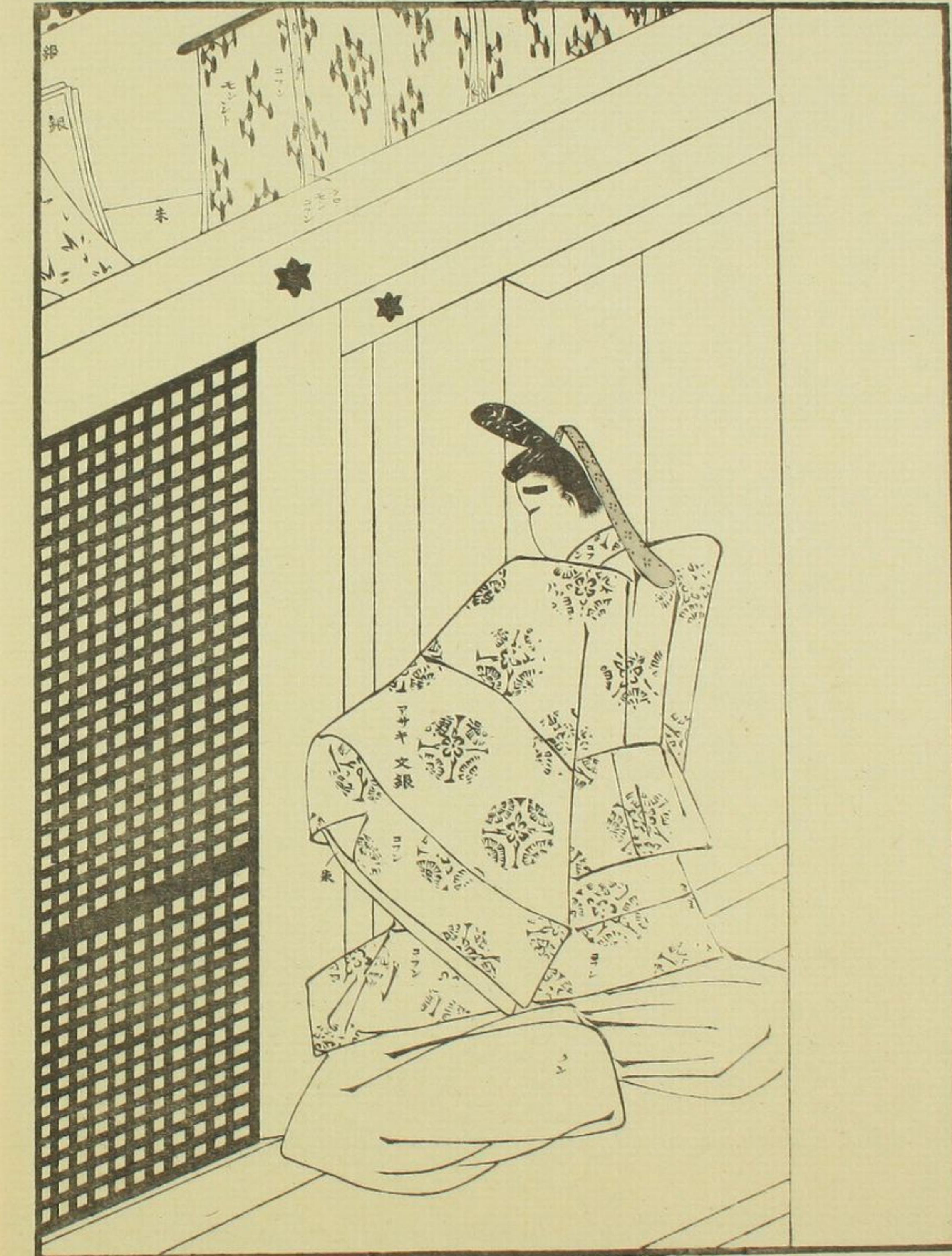
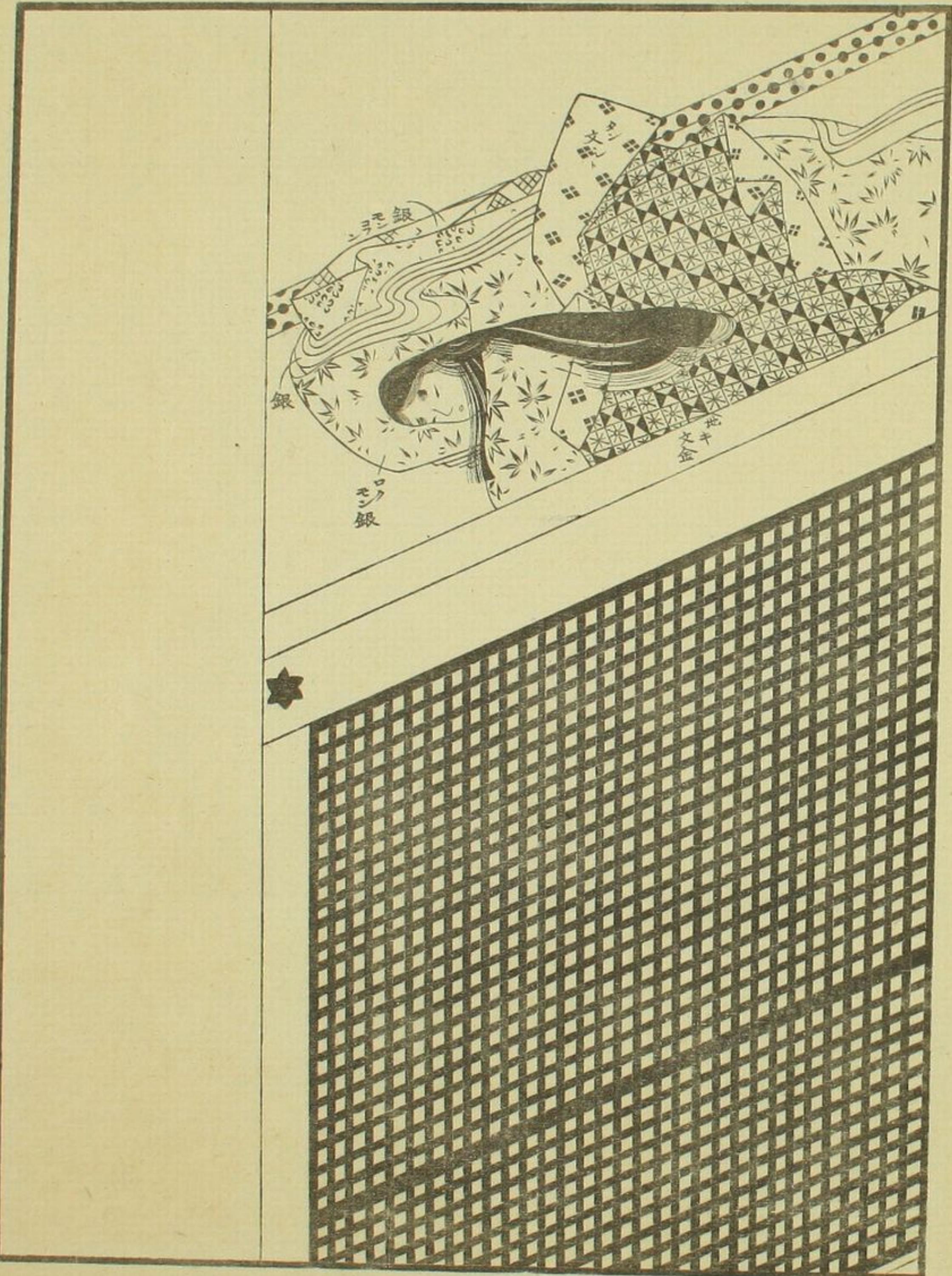




わ、殿よおのぞかずかせんへおほきにと
ねうるーにだ。まもあくわくすく
まくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまく

まくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまく

まく



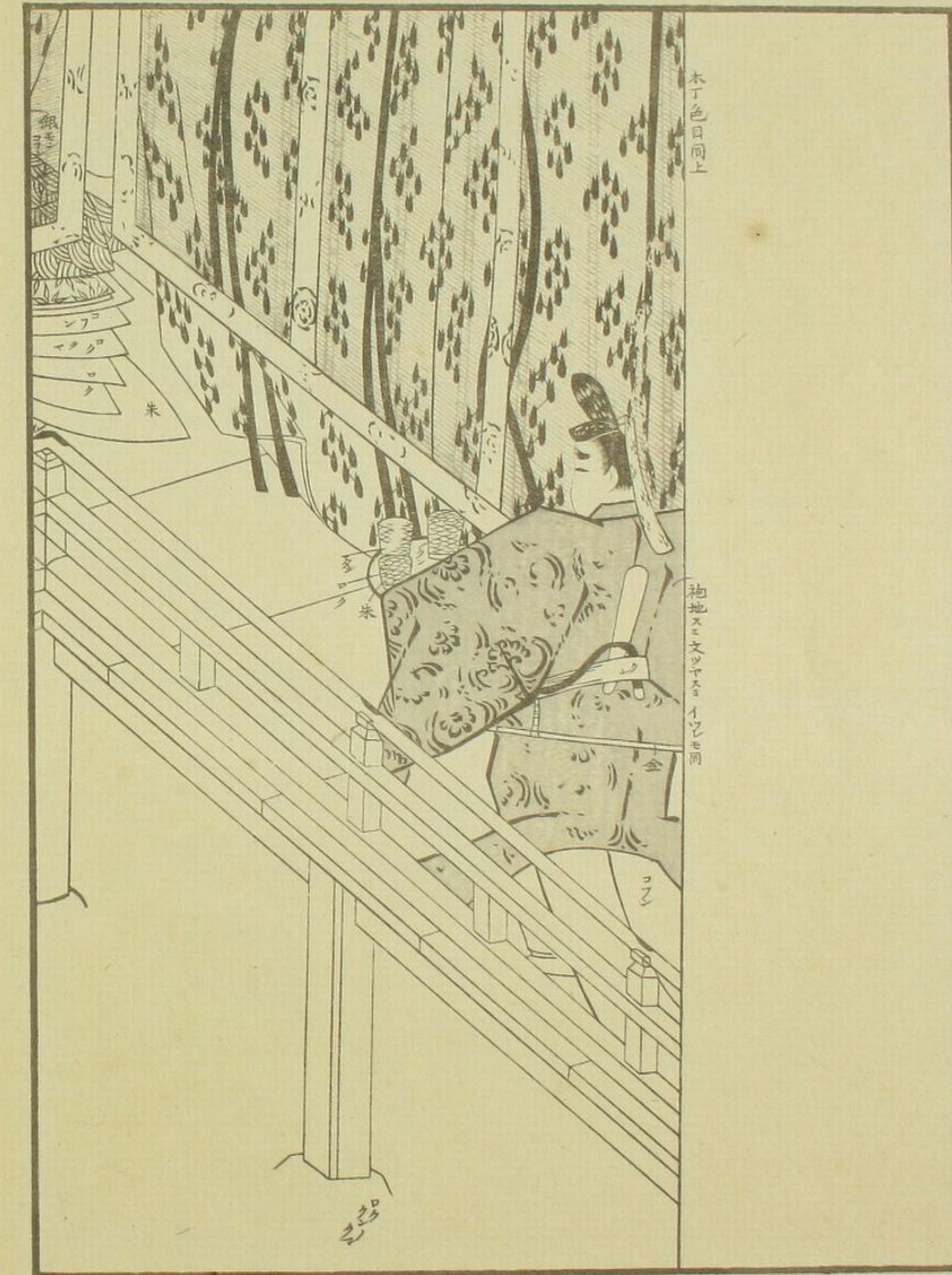
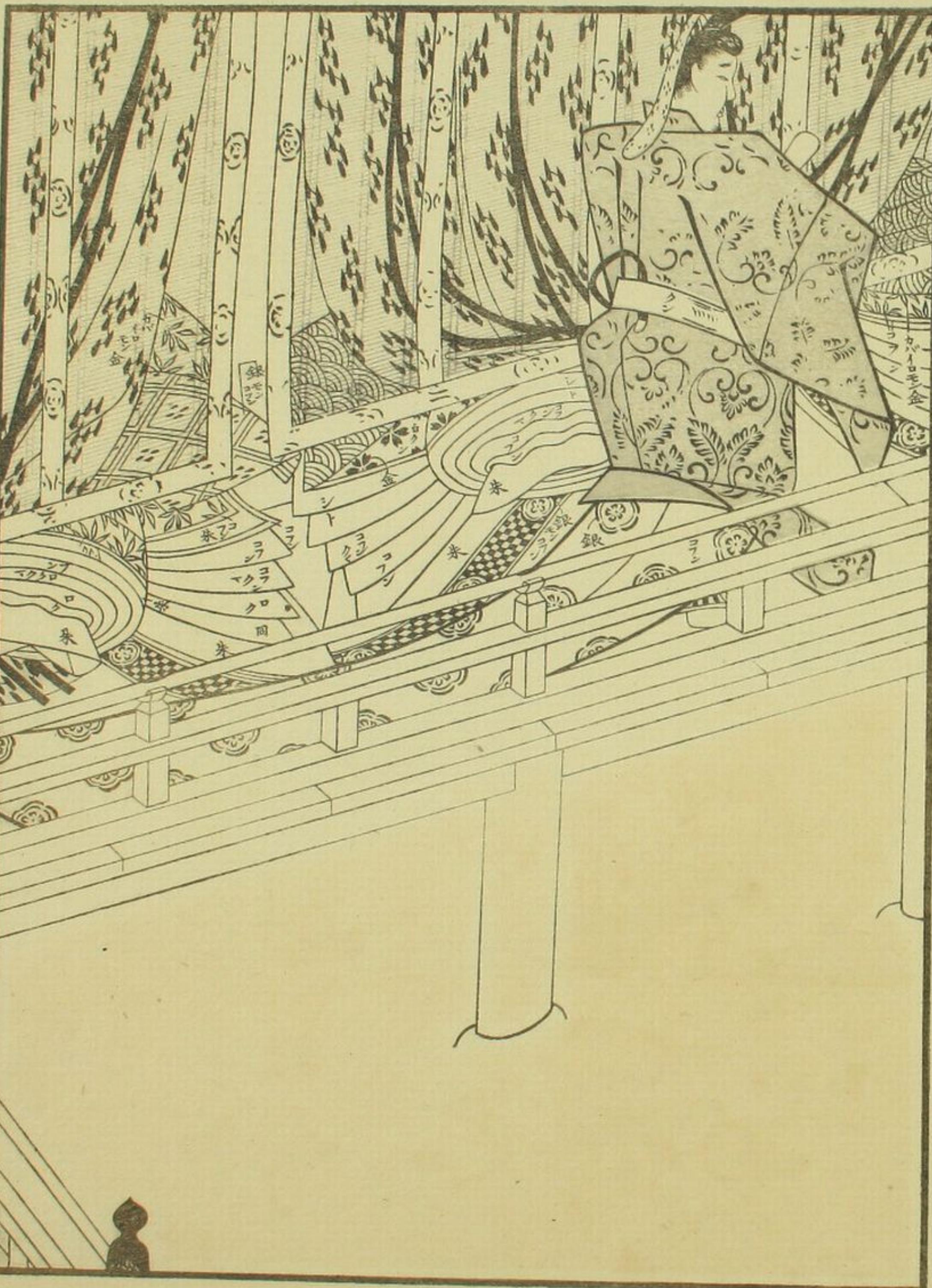
二宮の御いりと正月十五日うのあつて
かまよ小かねりさみあんそくをもとへかくらを
かくらにまよそ終る例のねだりとあるて
あるわれつやねをひくよあんせと、こまほよふ
あるほとすむじとまよあたとまよはと
うとへてあつてあつ殿うわりをほくさん
しゆくよがくらすかとまくへきとくき
ちくらうとまくとまくよくへきとくやくと
もあんほとまくのうながまくとまく

ねがめうらかとまくのうながまくとまく
かくらうとまくとまくよくへきとくやくと
もあんほとまくのうながまくとまく
くわうとまくとまくよくへきとくやくと
かよすあかくとまくとまくよくへきとく
こつへくふとまくとまくよくへきとく
ねごくとまくとまくよくへきとく
ますあかくとまくとまくよくへきとく
うくわうとまくとまくよくへきとく

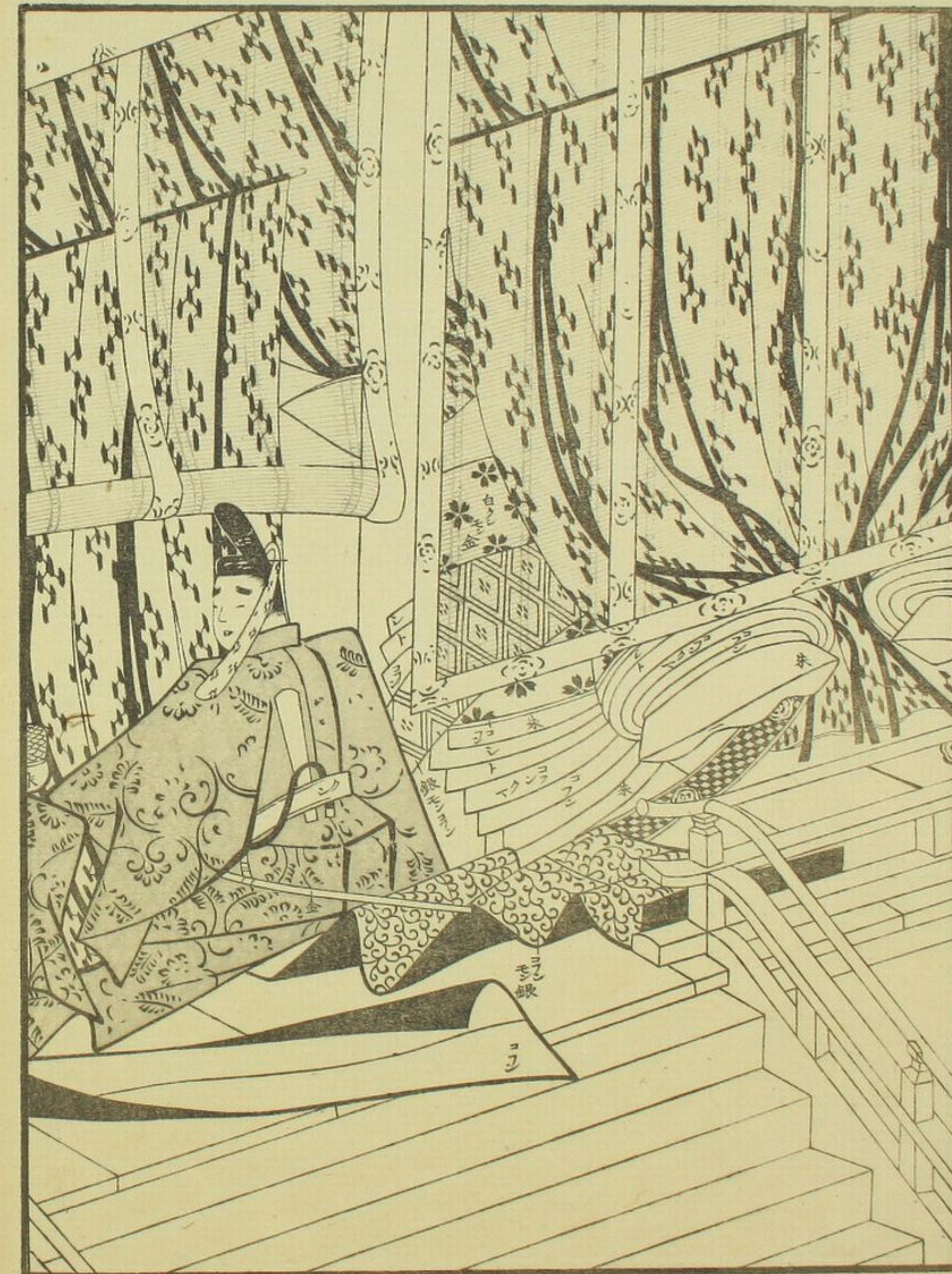
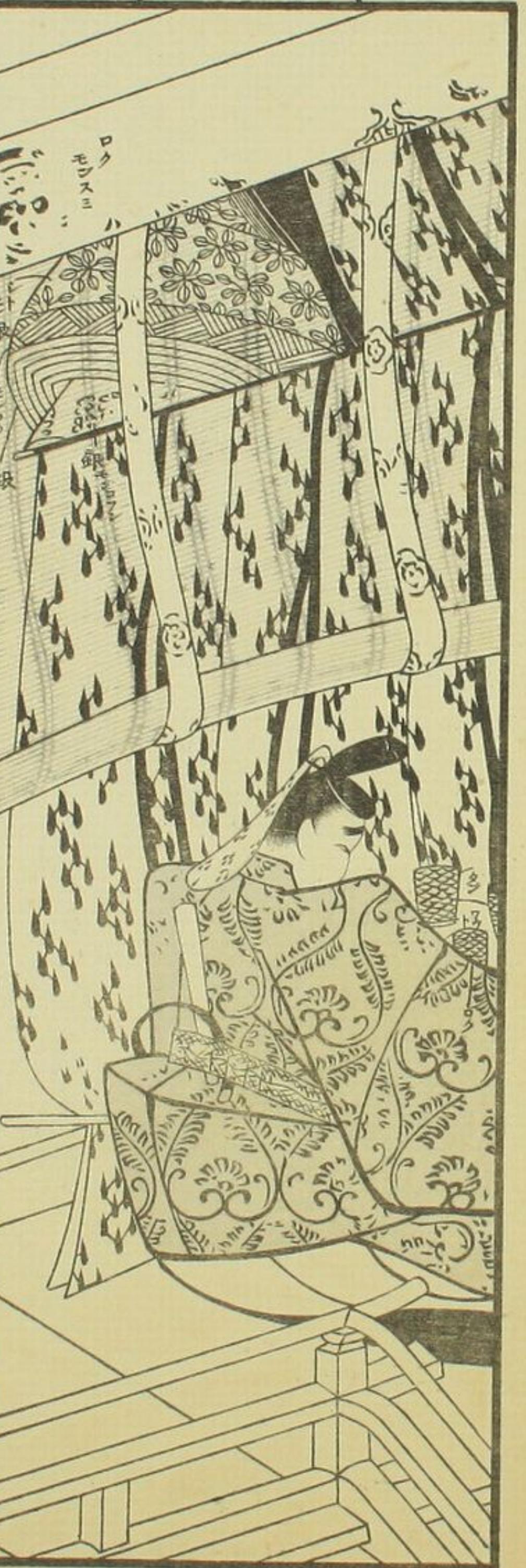
あらへてかうやまくの脚うじよえひの身の
おもむけたる事はあらむかといふがまへ
ほもくにまきとまつあるもむかへ
あまとおがくよがくわすれむかへ
ゆづの身のとこやいはせむかへ海す
乃もかくあくにあくまむるにあくま
うくがくあくまくはくまくはくま
かのくまくまくまくまくまくまくま
くまくまくまくまくまくまくまくま
まくまくまくまくまくまくまくまく

あらへてかうの身のとこやいはせむ
ゆづの身のとこやいはせむかへ
まくまくまくまくまくまくまくまく
うくがくあくまくはくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまく

猪



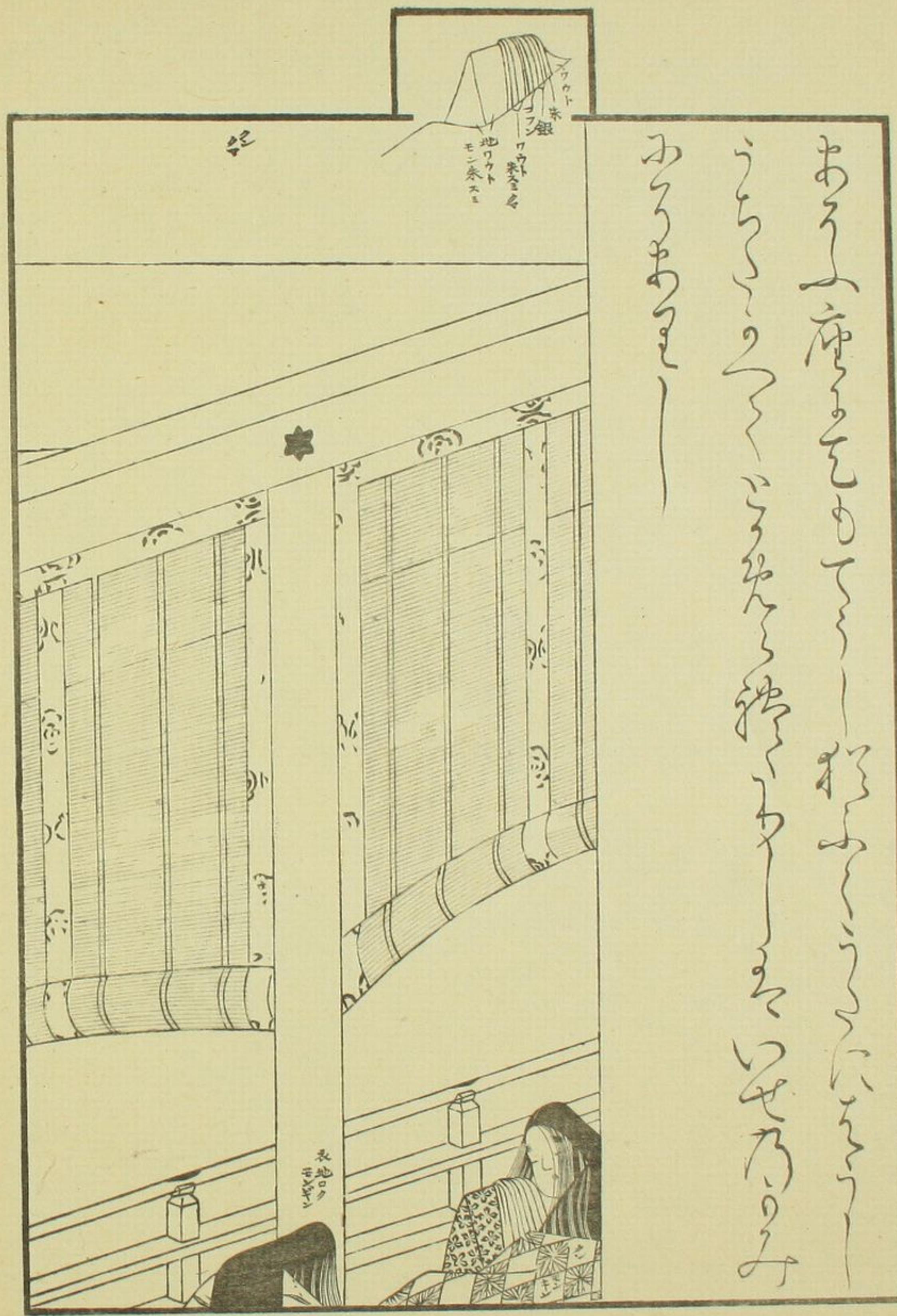
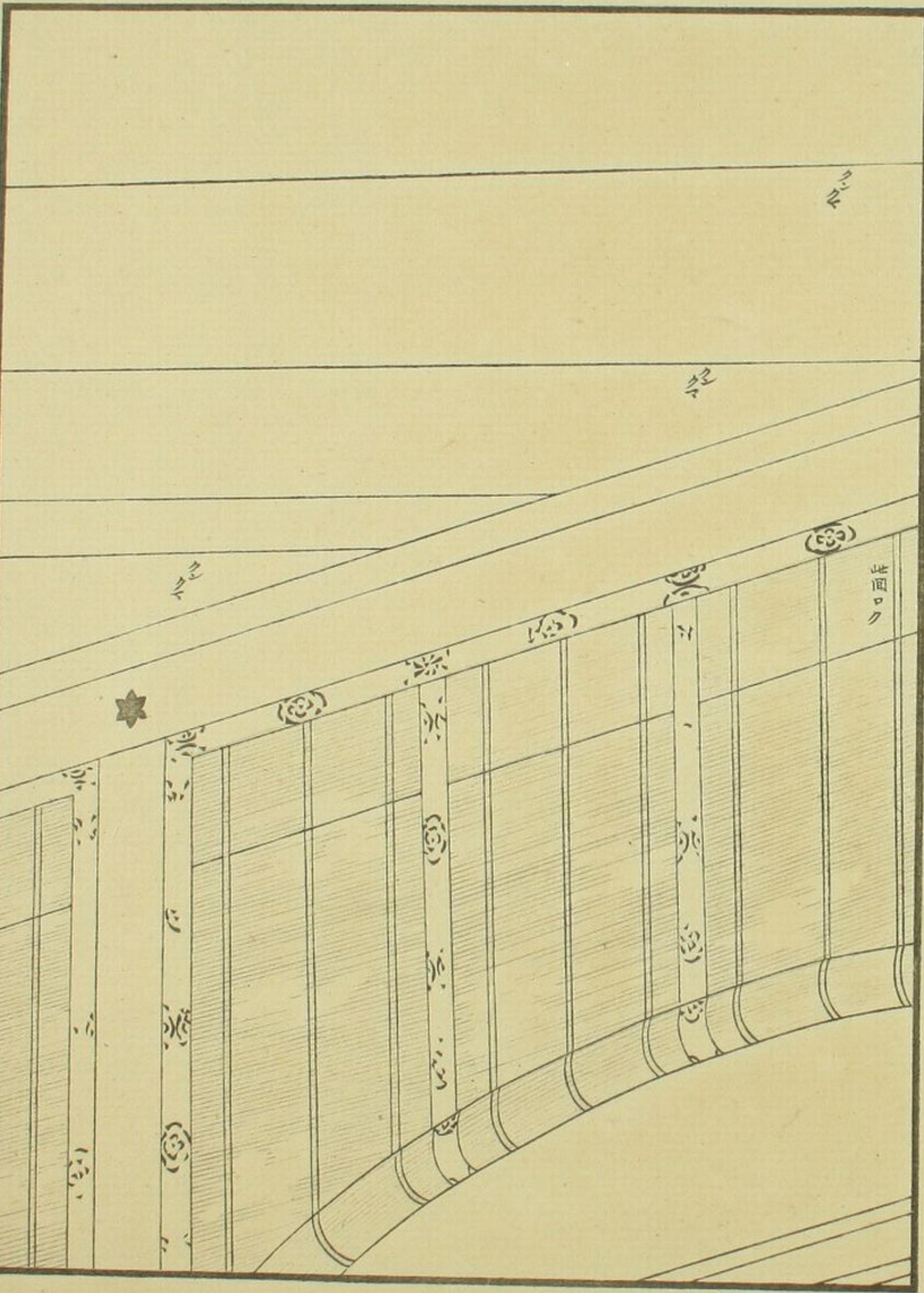
文金
シテ
多口金
シテ



廿

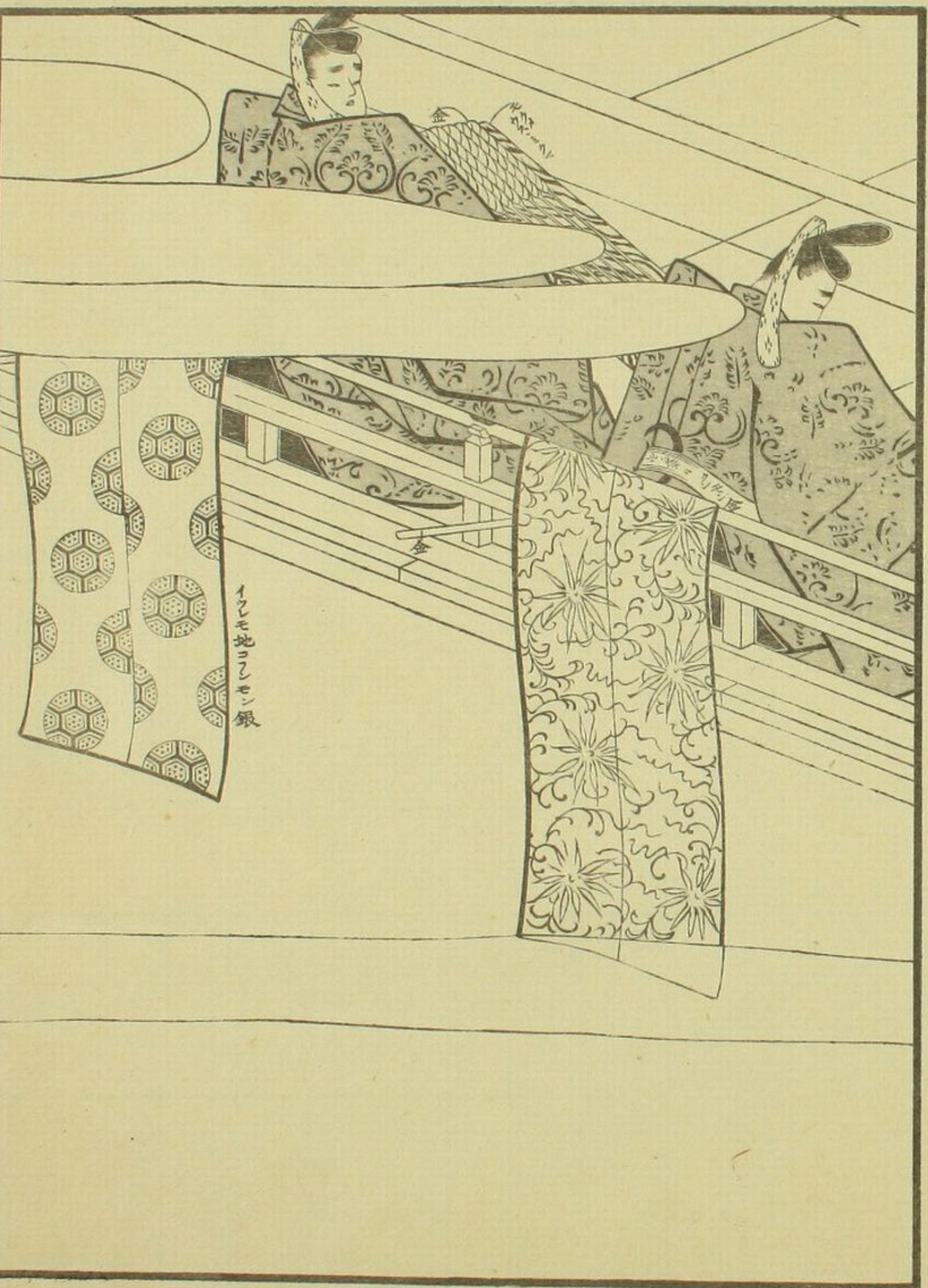
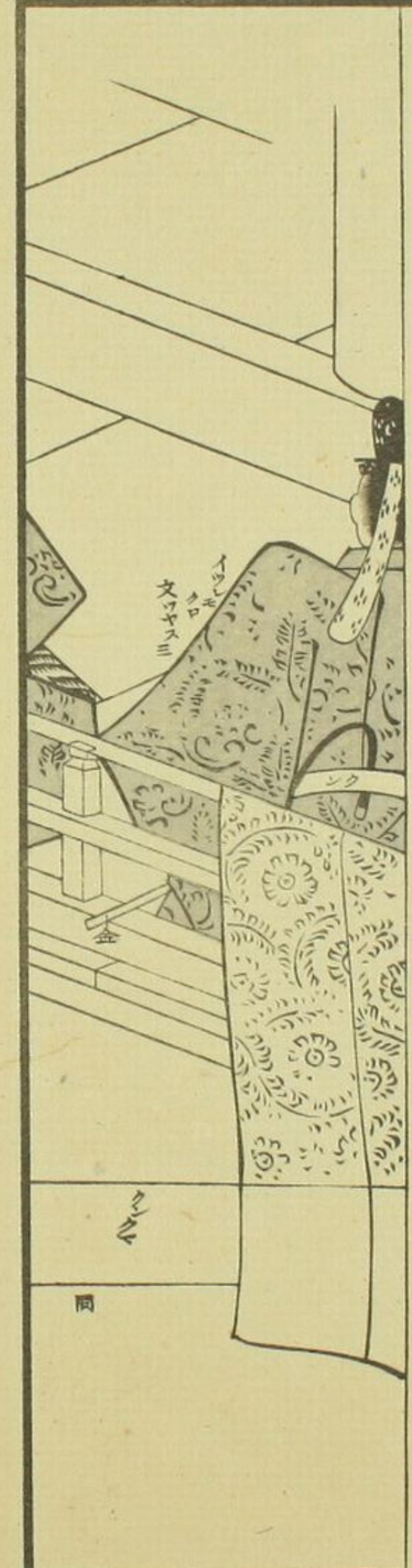
ひそ一の事アシタノハシナシの女メイかと御膳
乃オうねすをひのねヒノネーふれ、おみねオミネーす
てあアあア三ミ位イをヲそく内ウチのヂトトうち
もあアあアあアまマさサまマのノくクわワのヲとトかカけ
ーの下シひヒーのノいイれレるルみミのノしシまマ
ちチくクまマのノよヨ上ウ觸タケらラ御ミ膳ゼンのノし
うウのノまマきマすスあアまマ小コ大ダ納タナ言ガシ乃ノミミ
少コおオのノまマみミよヨおオまマ称シまマうウすスをヲきキうウなナ
ひヒそソのノまマよヨたタのノまマすスをヲきキうウなナ

ゆユれレきキよヨひヒつツてテしシんンくク一イ箸スよヨ
ゆユ西シをヲくク上ウをヲ部ブたタ古コ内ナトト殿ジン春ハ
宮ムカシの傳ツ中コえエちチくク室ムカシ大ダ納タナまマ下シトトハハ
侍シテ御ミ殿ジンあア殿ジン人ヒトもモのノ対タマのノ辰タマ己タマ
小コあアくクとト廊ラよヨぬヌ地ジ下シトトまマよヨ持ハすス
うウきキまマれレあアうウしシれレせセのノうウしシゆユトトもモ
まマちチかカやヤうウかカくクよヨ室ムカシ大ダ納タナまマりリりリ
乃オあアえエうウうウうウれレきキよヨあアかカよヨうウ
ふフむムろロうウのノ殿ジントトもモうウうウうウ



廿三

右のたゞわざいとれむーとくくなむとーお
経き持ほむうーとくふひすとあやまら乃
いふやしゆをとそとあらぐ人の身とひこすよ
御おもかものよみかめいとくよいれとさうえ
ちも



上四廿

